

# 南勢の考古資料 1

世古遺跡・下沖遺跡・二ツ屋遺跡

研究紀要第 17—2 号

2008（平成 20）年 3 月

三重県埋蔵文化財センター



## 例　言

- 1 本書は、三重県教育委員会及び三重県埋蔵文化財センターが昭和60年度から平成6年度にかけて緊急発掘調査を実施した遺跡のうち、玉城町・伊勢市（旧御園村合）の調査成果を「南勢の考古資料1 世古遺跡・下沖遺跡・二ツ屋遺跡」としてまとめたものである。
- 2 本書で掲載する遺跡と調査年度、原因事業名、現地発掘調査担当は以下のとおりである。

世古遺跡（平成4年度県道田丸（停）齊明線道路改良事業）	調査担当：高崎 仁
下沖遺跡（昭和60年度県営圃場整備事業）	調査担当：上村 安生・小林 直人
二ツ屋遺跡（平成6年度県道大湊宮町停車場線道路改良事業）	調査担当：高崎 仁・越賀 弘幸
- 3 本書のもととなる記録類および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。
- 4 本書の作業業務は、支援研究課が行った。本文の執筆は河北 秀実・高崎 仁(1)・上村 安生(2)・田村 陽一(3)が担当した。

## 凡　例

- 1 本書で使用した地形図は、国土地理院発行の1/25,000地形図（『松阪』・『明野』・『伊勢』）、伊勢市都市計画基本図、玉城町計画図である。
- 2 遺構平面図で座標表記があるものは、国土調査法の日本測地系による座標第VI系（旧国土地標）で表示している。地形図以外の方位は真北で示したが、二ツ屋遺跡遺構実測図（42頁第27図）は磁北で示している。なお、磁針方位は西偏6°50'（平成12年度）である。
- 3 土層図の色調と土質は調査時の記録をそのまま用いた。
- 4 本書での遺構番号は、それぞれの遺跡単位で通番としている。
- 5 遺構番号の頭には、遺構の性格により、以下の略記号を付した。

S A : 柱列	S B : 挖立柱建物	S D : 溝	S E : 井戸	S F : 土器焼成坑
S K : 土坑	S X : 墓・火葬穴	S Z : 石列・落ち込みなど	Pit : 小穴・柱穴	
- 6 本書での遺物実測図の縮尺は原則として1/4である。
- 7 本書内では、「つき」は「杯」、わんは「椀」に統一した。

# 目 次

1 世古遺跡（西垣内遺跡）	（高崎 仁・河北 秀実）	1
2 下沖遺跡	（上村 安生）	29
3 ニツ屋遺跡	（田村 陽一）	41

## 挿図目次

第1図 世古遺跡調査区位置図	1
第2図 世古遺跡遺跡地形図	3
第3図 世古遺跡遺跡位置図	3
第4図 世古遺跡A地区土層断面図、遺構平面図、SF1・SE6・7実測図、S B13~15実測図	5
第5図 世古遺跡A地区遺物実測図	7
第6図 世古遺跡B地区土層断面図、遺構平面図、S F125・S E118実測図、S B132~134実測図	9
第7図 世古遺跡S X131遺物出土状況図	10
第8図 世古遺跡S F124実測図	10
第9図 世古遺跡S B135~139・S E122・111・119・126・121実測図	11
第10図 世古遺跡B地区遺物実測図1	15
第11図 世古遺跡B地区遺物実測図2	16
第12図 世古遺跡B地区遺物実測図3	17
第13図 世古遺跡B地区遺物実測図4	18
第14図 世古遺跡B地区遺物実測図5	19
第15図 世古遺跡B地区遺物実測図6	20
第16図 世古遺跡B地区遺物実測図7	21
第17図 下沖遺跡遺跡位置図	29
第18図 下沖遺跡遺跡地形図	30
第19図 下沖遺跡調査区位置図	31
第20図 下沖遺跡A地区・B地区遺構平面図、B地区土層断面図	32
第21図 下沖遺跡S E 1・S E 17実測図、S X 4実測図、S B 15実測図	33
第22図 下沖遺跡S E 13・S Z 14実測図	34
第23図 下沖遺跡A地区遺物実測図	35
第24図 下沖遺跡A・B地区遺物実測図	36
第24図 ニツ屋遺跡遺跡位置図	41
第25図 ニツ屋遺跡調査区位置図・試掘坑位置図	41
第26図 ニツ屋遺跡調査区配置図	42
第27図 ニツ屋遺跡遺構実測図	42
第28図 ニツ屋遺跡遺物実測図	43

## 挿表目次

第1表 世古遺跡A地区据立柱建物一覧表	4
第2表 世古遺跡A地区土器焼成坑・井戸・溝・土坑一覧表	4
第3表 世古遺跡A地区遺物一覧表	7
第4表 世古遺跡B地区据立柱建物一覧表	10
第5表 世古遺跡B地区井戸・溝・土坑一覧表	13
第6表 世古遺跡B地区遺物一覧表1	22
第7表 世古遺跡B地区遺物一覧表2	23
第8表 世古遺跡B地区遺物一覧表3	24
第9表 下沖遺跡遺物観察表1	37
第10表 下沖遺跡遺物観察表2	38
第11表 ニツ屋遺跡遺物観察表	44

## 図版目次

図版1 世古遺跡A地区全景/A地区S B13/A地区SA16・17・SB15/A地区SF1/B地区全景/B地区北半/B地区SK105遺物出土状況/B地区S X131	27
図版2 下沖遺跡A地区S X 4/A地区S X 4/A地区南部/B地区全景/A地区S E 13・S Z 14	39

# I 世古遺跡(西垣内遺跡)

## 1 前言

### (1) 調査に至る経過

今回報告する世古遺跡の発掘調査は、平成4年度県道丸(停)齊明線道路改良事業に先立って行われた緊急発掘調査である。分布調査の結果、明和町内で約1,000m<sup>2</sup>、玉城町内で約3,000m<sup>2</sup>の範囲に、中世の遺物が散布している事が確認された。試掘調査は玉城町内で平成4年9月30日～10月2日の間に高崎が行った。2m×4mのグリッドを17箇所である。その結果、北側のA地区350m<sup>2</sup>、南側のB地区250m<sup>2</sup>、計600m<sup>2</sup>の範囲で遺構、遺物を確認し、本調査の必要が生じた。

なお、本調査範囲のさらに北側にある明和町内の約1,000m<sup>2</sup>の範囲については平成5年3月10日に筒井正明を担当として試掘調査を実施した。その結果、遺構は確認されず、遺物も土師器の細片が数点出土しただけで、本調査の必要はないと判断した。

(高崎 仁)

### (2) 調査経過と方法

本調査は平成4年12月7日から同5年2月10日までの間、高崎仁を担当として実施した。表土の除去は重機を使用し、遺物包含層と土坑や井戸などの大きな遺構は、スコップを使用した人力掘削、ピット等の小さな遺構は移植ごとを使用した人力掘削である。廃土はベルトコンベアにより運搬した。調査区の土層断面図は1/20で作成し、遺構の平面実測は遺り方測量で、1/20で手書き実測で作成した。土器焼成坑等の個別の重要遺構は1/10で平面図及び断面図を作成した。遺構写真は6×9cm判および35mm判で撮影した。

(河北秀実・高崎 仁)



第1図 世古遺跡調査区位置図(1:2,000)

## 2 位置と環境

### (1) 位置

世古遺跡(1)は、行政区画上は玉城町世古に所在し、玉城町と明和町にまたがる玉城丘陵の北東端裾部に位置する。遺跡の範囲は、玉城町世古の現集落全体とその西側の標高20～25mの等高線に沿って丘陵裾部に連続して広がっているものと思われる。なお、文化財保護行政上の遺跡登録は、発掘調査を実施した地区を含めた南面する谷地形周辺を西垣内遺跡、遺跡の西側の丘陵南斜面のあたりを迫間垣内遺跡、世古の現集落全体部分を世古里中遺跡として、三遺跡に分断して範囲を示している。しかし、遺物の散布状況と地形観察から判断すれば、本来は連続した遺跡とするのが妥当であろう。散布遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器であり、世古遺跡の中心となる時代は奈良、平安、中世に至るものと推定されている。

### (2) 歴史的環境

#### ①奈良時代の周辺の遺跡

世古遺跡の北2.5kmには官衙遺跡である国史跡斎

## 3 A 地区の調査結果

### (1) 土層

A地区の基本的層序は第1層が黒褐色砂質土の耕作土、第2層が褐色砂質土の遺物包含層、第3層が暗褐色砂質土の遺物包含層、第4層が褐色粘質土の地山である。第2層、第3層とも遺物を多量に包含している。遺構は第3層上面から切り込んでいるものもあったが、遺構検出は第4層上面で行った。

### (2) 遺構

遺構は奈良時代から室町時代までのものを確認したが、個々の遺構の規模等、概要については表に記した。以下には、各遺構の特記事項等を中心に概述する。

#### ①奈良・平安時代の遺構

##### ア) 土器焼成坑

**S F 1** 平面形は隅丸二等辺三角形で、長さ2.8m、幅1.5m、深さは検出面から0.3～0.5mである。床面は平坦で、奥壁および側壁はほぼ垂直に立ち上がる。床と壁の表面は厚さ3cm程の焼土となり硬化

宮跡<sup>(1)</sup> (2)がある。また、集落跡としては、神殿遺跡<sup>(2)</sup> (3)、寺垣内遺跡<sup>(3)</sup> (4)などで発掘調査が行われている。明和町では土器焼成坑が検出された遺跡が斎宮跡を取り囲むようある。土器焼成坑は、粟垣外遺跡<sup>(4)</sup> (5)、斎宮跡<sup>(5)</sup>、水池遺跡<sup>(6)</sup> (6)、黒土遺跡<sup>(7)</sup> (7)、北野遺跡<sup>(8)</sup> (8)、戸峯A遺跡・戸峯B遺跡<sup>(9)</sup> (9)、堀田遺跡<sup>(10)</sup> (10)、金剛坂遺跡<sup>(11)</sup> (11)、発シ A遺跡<sup>(12)</sup> (12)、発シ B遺跡<sup>(13)</sup> (13)、発シ C遺跡<sup>(14)</sup> (14)、大道遺跡<sup>(15)</sup> (15)などで検出例があり、その総数は400基を越えている。

##### ②中世の周辺の遺跡

中世の集落は、明和町内では源越遺跡<sup>(16)</sup> (16)、本郷遺跡<sup>(17)</sup> (17)、外山遺跡<sup>(18)</sup> (18)など、また玉城町内では世古遺跡の南500mに所在する砂谷遺跡<sup>(19)</sup> (19)などが確認されている。中世城跡は、池村城跡<sup>(20)</sup> (20)、岩内城跡<sup>(21)</sup> (21)、上村城跡<sup>(22)</sup> (22)、有爾中城跡<sup>(23)</sup> (23)、斎宮城跡<sup>(24)</sup> (24)などがある。

(河北秀実)

している。遺構の埋土は褐色で、黄色土ブロックと炭が混じる。焼成坑の南側には炭を多量に含んだ灰原が、長さ1m程広がる。

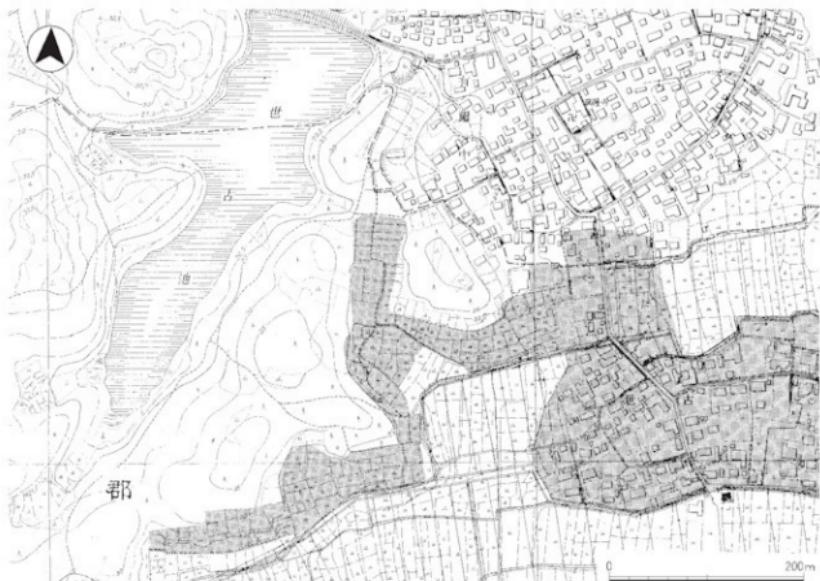
##### イ) 堀立柱建物

**S B 13** 4間×2間の南北棟で、棟方向はN 13° Eである。柱穴には根石を伴うものもある。出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

##### ウ) 溝

**S D 3** 長さは約18m確認したが、両端とも発掘区外に延びる。方向はN 15° Eで、溝の西側にある堀立柱建物 S B 13の棟方向とほぼ一致することから区画溝と考えられる。遺物も平安時代の遺物が出土している。

**S D 8** 長さ2.4m程の小溝である。出土遺物は土師器小片で、遺構の詳細な時期を決定することはできないが、S D 3との切り合いにより平安時代以前と判断した。



第2図 世古遺跡遺跡地形図(1:5,000)



第3図 世古遺跡遺跡位置図(1:50,000)[国土地理院『松阪』・『明野』1:25,000]

遺構名	小地区	規 横	柱 間寸法 (m)	方位	柱穴 (m)	柱穴p.i.t名	時代	出土遺物	備 考
S B13	A7・8・9 B7・8	4間×2間	桁行 1.5等間 梁行 2.25等間	N13° E	径0.2 -边0.2~0.4	A7P2・7、 A8P5・6・8、 A9P2、B8P1	平安	土師器甕 (2)	
S B14	A6・7・8	4間×2間以上	桁行 0.9+1.8+1.8+1.8 梁行 α+2.4+1.8	N14° E	-边0.2~0.4	A7P1・3・5、 A6P2、A8P10	中世	土師器甕・鍋・ 小片、灰釉陶器	
S B15	A4・5・6 B5・6	3間以上×2間 南北庭	桁行 α+1.5+1.0+1.5 2間で3.0+1.5	N24° E	-边0.4~0.5	A4P1・4、 A5P1・3・8、 B5P2	中世	土師器甕 (17)、 土師器片	
S A16	A5・6・7 B6	東西2間以上 南北3間以上	東西 2.0等間 南北 1.8+2.4+1.8+α	N15° E	-边0.3~0.6	A5P2、A6P1、 A7P6	中世	土師器片	S Bの可能性あり
S A17	A4・5 B5・6・7	南北4間	2.4+3.2+2.8+2.8	N 8° E	-边0.2~0.4	A4P3	中世	土師器片	

第1表 世古遺跡A地区掘立柱建物一覧表

遺構名	調査時 遺構名	小地区	形状又は方向	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	時 代	主 な 遺 物	備 考
S F1	S F1	A7・8	二等辺三角形	2.8	1.5	0.3~0.5	奈良	土師器皿 (1)・甕、須恵器	
S D2	S D2	B7・C7	N19° E	3.9以上	0.3	0.1	中世	土師器小皿 (19)・鍋、 山茶桜 (20)、楕型溝 (21)	
S D3	S D3	A3・4、 B4・5・6、 C6・7	N15° E	18以上	0.3~0.4	0.1~0.2	平安	土師器皿 (3・4)・甕 (5・6)、 山茶桜 (7)、磁石 (8)	SK4より新 SD8より新
S K4	S K4	B6	円形	0.9~1.0	0.3		中世	土師器鍋	SD3より古
S K5	S K5	A8、B8	不定形	2.0	1.2	0.1	平安	土師器甕 (9)	SK1より新
S E6	S K6	A7	椭円形	1.3	1.1	1.5以上	中世	土師器皿 (18)・鍋、青磁、陶器	
S E7	S E7	A6、B6	円形	0.7		0.9	鎌倉	土師器鍋・山茶桜	
S D8	S D8	A4	N21° E	2.4	0.4	0.1	平安以前	土師器	SD3より古
S K9	S K9	B6	不定形	2.1	1.7	0.2	奈良~平安	土師器皿 (10)・甕 (11)	SK10より新 SK4より古
S K10	S K10	B6	不定形	1.0	0.5	0.4	平安	土師器甕 (12)	SK9より古
S K11	S K11	B8	不定形	1.1	0.4	0.1	奈良~平安	土師器皿 (13)・甕 (14・15)	SK5より古
S K12	S K12	B6	円形	0.9		0.3	平安	土師器皿 (16)	

第2表 世古遺跡A地区土器焼成坑・井戸・溝・土坑一覧表

## 工) 土坑

S K5・9~12 平面形は S K 5・9~11が不定形、

S K12が円形である。

## ②中世の遺構

## ア) 掘立柱建物

S B14 4間×2間以上で、南東に張り出し部をもつ。柱穴からの出土遺物が乏しく、詳細な時期決定はしがたい。

S B15 3間以上×2間である。柱穴からの出土遺物が乏しく、詳細な時期決定はしがたい。

## イ) 構

S A16 南北3間以上×東西2間以上のL字状であるが、掘立柱建物になる可能性もある。

S A17 南北方向11.2m、4間の構である。

## ウ) 井戸

S E 6 平面形は径1.1~1.3mの楕円形で、深さ1.5mまで確認したが、その下は湧水が激しく掘削を断念した。

S E 7 平面形は径0.7mの円形で、深さ0.9mである。遺構の時期は出土遺物から鎌倉時代と考えられ

る。

## エ) 溝

S D 2 長さ3.9m以上の溝である。楕型溝 (21)が出土していることから、製鉄関係遺構の可能性がある。

## オ) 土坑

S K 4 平面形は円形である。

## (3) 遺物

①奈良~平安時代の遺構出土遺物

## ア) 土器焼成坑出土遺物

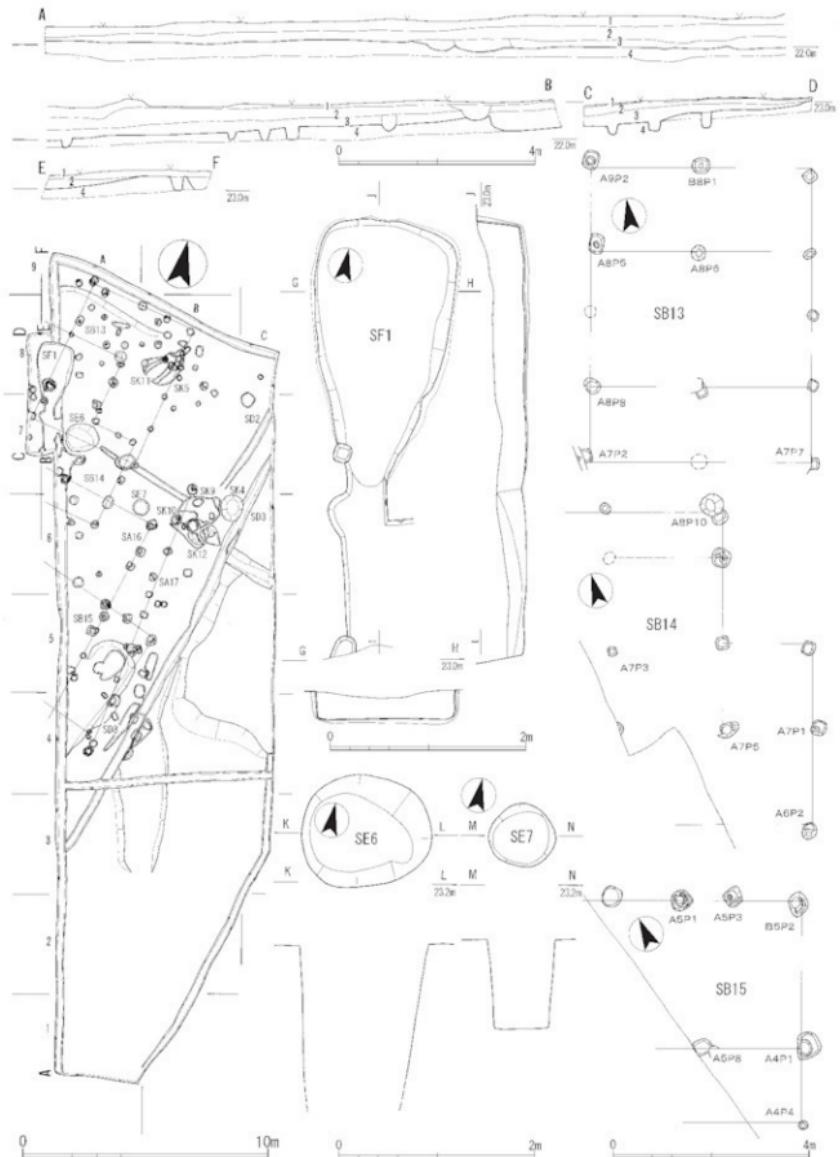
## S F 1 出土遺物 (1)

土師器台付皿 (1)は灰原出土で、口径10cmの浅い皿に、径5cm程のしっかりした高台がつく。器面は摩耗が激しく、調整は不明である。

## イ) 掘立柱建物出土遺物

## S B 13 出土遺物 (2)

土師器甕 (2)は口縁部が「く」の字状で、端部を内側に折り曲げる。平安時代の物である。



第4図 世古遺跡A地区土層断面図(1:100)、遺構平面図(1:200)、SF1・SE6・7実測図(1:50)、SB13~15実測図(1:100)

#### ウ) 溝出土遺物

##### S D 3 出土遺物 (3 ~ 8)

土師器皿(3・4)はともに小片であるが、口縁部はヨコナデである。土師器甕(5・6)は口縁端部を内側に曲げる。山茶椀(7)は、藤澤編年<sup>120</sup>の4型式である。砥石(8)は残存長13cm、幅7cm、厚さ3.6cmで、片面のみ使用している。

#### エ) 土坑出土遺物

土師器甕(9)はS K 5出土、土師器皿(10)・甕(11)はS K 9出土、土師器甕(12)はS K 10出土、土師器小皿(13)・甕(14・15)はS K 11出土である。甕(11)は口径30cm程で長胴甕になるものである。土師器甕(12)は、胸部はオサエ調整で平安時代中期のものである。

#### ②中世の遺構出土遺物

##### ア) 堀立柱建物 S B 15 出土遺物 (17)

土師器杯(17)は、口径19cm程になるもので、口縁部はヨコナデである。

##### イ) 井戸 S E 6 出土遺物 (18)

土師器皿(18)は小片であるが、口縁部はヨコナ

デである。なお、他に図示し得なかったが、藤澤編年の4~5型式と考えられる山茶椀も出土している。

#### ウ) 井戸 S E 7 出土遺物

出土遺物は細片のため図示し得なかったが、鎌倉の土師器甕、6型式の山茶椀が出土している。

#### エ) 溝 S D 2 出土遺物 (19 ~ 21)

土師器小皿(19)は、口径8cm程で、口縁端部はヨコナデである。山茶椀(20)は藤澤編年の7型式である。椀型滓(21)は径8cm、厚さ2cm程である。

#### ③ピット出土遺物 (22 ~ 25)

須恵器瓶(22)は、体部が球形で細長い首がつくもので、古墳時代の遺物である。土師器皿(23)・甕(24・25)は奈良時代以降の遺物である。

#### ④包含層出土遺物 (26 ~ 37)

須恵器杯(26)は底部が平底になるもので、古墳時代の遺物である。土師器皿(27~29)・椀(30)・甕(31)、灰釉陶器椀(32)、山茶椀(33)、土製品(34~37)は平安時代~中世の遺物である。(河北秀実)

## 4 B 地区の調査結果

### (1) 土層

B地区の基本的層序は第1層が暗灰色土の耕作土、第2層が灰褐色砂質土または灰褐色粘質土の遺物包含層、第3層が黄褐色粘質土の地山である。遺構は第2層上面から切り込むものと、第3層上面から切り込むものがみられたが、遺構検出は第3層上面で行った。なお、調査区南西側のC 3~5、D 3地区では第2層と第3層の間に黄色砂の整地層がみられた。整地層は南北約10m、東西約8mの範囲で厚い所では0.4m程である。

### (2) 遺構

遺構は奈良時代~平安時代、鎌倉時代、室町時代の堀立柱建物、井戸、溝、土器焼成坑、墓、土坑、ピットを検出した。個々の遺構の規模等については、一覧表に記した。以下には特徴的な事項や補足事項を中心に記述する。

堀立柱建物はいずれも調査区北東部に集中しており、柱穴の切り合いや重複関係が複雑で、調査時に誤判断をした可能性も否定できない。出土遺物には

かなりの時期幅があり、遺物だけでは遺構の正確な時期決定が困難なため、遺構の形状も考慮して時期を判断した。

#### ①奈良時代~平安時代の遺構

##### ア) 堀立柱建物

S B 132 2間以上×2間の身舎に北面庇がつく東西棟の建物で、柱痕跡は径0.3mである。埋土からは中世の土師器鍋片も出土しているが、遺構の切り合い確認時の誤判断と考え、遺構の時期は奈良時代と考えた。

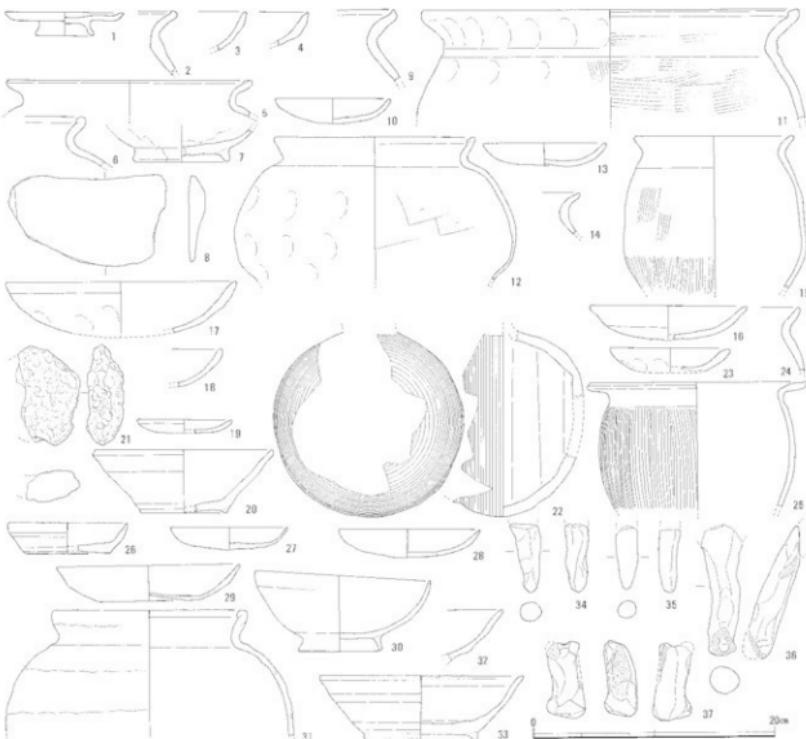
S B 133 3間×2間の身舎に南面庇がつく東西棟の建物である。梁行の西側妻柱を確認できなかった。柱痕跡は径0.2~0.3mである。出土遺物には、中世の遺物もみられたが、遺構の切り合い確認時の誤判断を考えた。遺構の時期は平面の形状から考えれば、S B 132とあまり変わらない時期と考えるのが妥当であろう。

S B 134 南北4間×東西3間以上に西に張り出しきをもつ建物である。柱穴には根石を作うものもある。

番号	整理番号	種類	出土位置
1	075-03	土師器付皿	SF1床原
2	074-05	土師器甕	SB13 A7P7上層
3	070-03	土師器皿	SD3
4	070-04	土師器皿	SD3
5	070-01	土師器甕	SD3
6	070-02	土師器甕	SD3
7	070-05	山茶椀	SD3
8	070-06	砥石	SD3
9	074-04	土師器甕	SK5
10	075-01	土師器皿	SK9
11	072-02	土師器甕	SK9
12	076-01	土師器甕	SK10
13	075-02	土師器皿	SK11
14	074-01	土師器甕	SK11
15	075-04	土師器甕	SK11
16	074-08	土師器皿	SK12
17	074-07	土師器皿	SB15 ASP1
18	074-02	土師器皿	SE6
19	071-05	土師器小皿	SD2

番号	整理番号	種類	出土位置
20	072-01	山茶椀	SD2
21	078-02	楕型甕	SD2
22	073-01	須惠器提瓶	B8P3
23	074-06	土師器皿	A4P5
24	074-03	土師器甕	B5P3
25	076-02	土師器甕	A8P4
26	072-03	須惠器杯	A7トレンチ
27	068-01	土師器皿	B5包含層
28	068-02	土師器皿	B5包含層
29	068-03	土師器皿	B6包含層
30	071-03	土師器椀	A5包含層
31	071-02	土師器甕	A7・B拡張包含層
32	068-05	灰釉陶器椀	B5包含層
33	071-01	山茶椀	B6包含層
34	068-06	土製品	B6包含層
35	071-04	土製品	A4トレンチ
36	069-06	土製品	B6包含層
37	070-07	土製品	B7包含層

第3表 世古遺跡A地区遺物一覧表



第5図 世古遺跡A地区遺物実測図(1:4)

出土遺物には、中世の遺物が若干混ざるが遺構の切り合い確認時の誤判断と考え、遺構そのものの時期は、平面の形状と出土遺物から平安時代後～末期のものと考えた。

#### イ) 土器焼成坑

S F 125 北西隅部分の0.5m×0.8m程残存しているだけで、大部分が後世の遺構によって破壊されている。深さは約0.1mで、壁面は焼土化している。出土遺物は、奈良時代と平安時代中期の二時期に分かれる。

#### ウ) 井戸

S E 118 平面形は径1.0mの円形で、深さは1.1mの素掘りの井戸である。遺構の時期は出土遺物から平安時代中～後期と考えられる。

#### エ) 土坑

S K 130 平面形は径2.5mの円形で、深さ0.8mである。遺構の時期は出土遺物から平安時代中～後期と考えられる。

#### ②鎌倉時代の遺構

##### ア) 井戸

S E 122 平面形は一辺0.8mの隅丸方形で、深さは0.8mである。素掘りの井戸である。

##### イ) 溝

S D 107 長さ6m以上、最大幅0.6m、深さ0.1mで、方向はN 6° Eである。

##### ウ) 土坑

S K 127 平面形は一辺0.8mの方形で、深さは0.4mである。

#### ③室町時代の遺構

##### ア) 据立柱建物

S B 135 東西4間×南北3間の建物で、柱穴には根石を伴うものもある。

S B 136 3間×3間の建物で、柱痕跡は0.2～0.3mである。

S B 137 調査区の北東隅で検出したもので、2間以上×1間以上を確認したが、調査区外に延びるために全体の規模は不明である。

S B 138 5間×2間の建物であるが、西中央部に2間×1間の張り出しきを、また南西角に1間×1間の張り出しきをもつ。柱穴は根石を伴うものもあり、また根石のみを検出したものもある。

S B 139 5間×2間の南北棟に3間以上×3間の東西棟が接続したL字状の建物である。柱穴には根石を伴うものもみられる。

##### イ) その他のピット

掘立柱建物群が集中している調査区北東部には、他にもピットが多数みられるが、これらのピットも掘立柱建物の柱穴となる可能性もある。

##### ウ) 井戸

S E 111・119・121・126 平面形はS E 111が方形、S E 119が円形、S E 121・126が楕円形で、4基とも素掘りの井戸である。

##### エ) 溝

S D 101 長さ5m以上、幅0.3m、深さ0.1mで、方向はN 17° Eである。

S D 102～104 調査区北端で、1.2m程の間隔で平行して検出した3本の溝である。長さ1.6～3.0m、幅0.2mで、深さは0.05～0.1mと浅く、方向はN 77° Wである。S D 103から出土した土師器鍋片をもつて室町時代の遺構と判断した。

S D 106 長さ3.5m以上、幅0.3m、深さ0.05mである。方向はN 17° Eで、S D 101と7.5m離れて平行している。

S D 113 長さ3.5m以上、幅0.2m、深さ0.05mで、方向はN 79° Wである。

S D 114 長さ11m以上で両端が発掘区外へ延びる。幅0.6～1.0m、深さ0.1～0.2mで、方向はN 13° Eである。S D 101・106とほぼ平行している。

##### オ) 墓

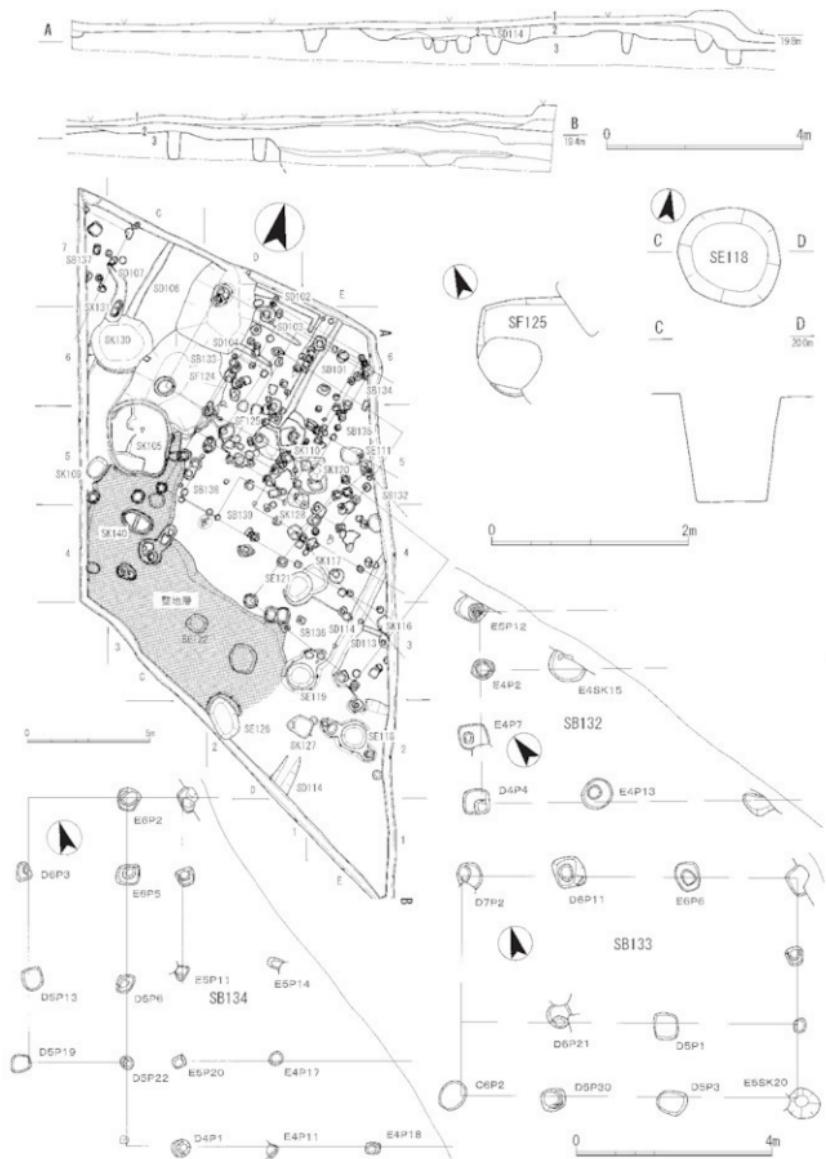
S X 131 平面形は0.6×0.3mの南北に長い隅丸長方形で、深さは0.2mである。遺構検出面では確認できなかったが、重複する溝S D 107より新しいと考えられる。遺構底部の北側で副葬品と考えられる土師器皿(158)が正立して出土した。

##### カ) 土坑

S K 105・109・110・117の4基がある。

##### キ) 土器焼成坑

S F 124 平面は4m以上×3.5mで、深さは0.3m、断面の形状は皿状をしているが、北と南を他の遺構に切られる。埋土には炭、灰、焼土塊が混じり、中世の土師器が大量に出土した。



第6図 世古遺跡B地区土層断面図(1:100)、遺構平面図(1:200)、S F 125・S E 118実測図(1:50)、S B 132～134実測図(1:100)

#### ④時期を決めがたい遺構

##### ア) 土坑

S K116・128・140 いずれも出土遺物が細片または皆無のため遺構の時期は不明である。

##### (3) 遺物

奈良時代から室町時代にかけての遺物が出土した。以下、時代別、遺構別に記述する。なお、出土遺物については当該遺構よりも新しい時期の遺物も合わせて図示したが、これは調査時の誤判断による混入の可能性が高いものである。

##### ①奈良時代～平安時代の遺構出土遺物

###### ア) 土器焼成坑出土遺物

###### S F125出土遺物 (38 ~ 43)

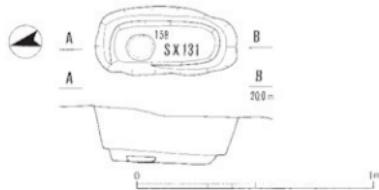
土師器壺(38)・杯(39)・皿(40)・高杯(41)は奈良時代の遺物である。土師器壺(38)・杯(39)・皿(40)は、口縁部ヨコナデで、底部は未調整である。高杯(41)は脚部のみの破片であるが、外面はハケメ調整である。

土師器壺(42)、灰釉陶器(43)は平安時代中期の遺物である。灰釉陶器(43)は、退化した三日月状の高台をもち、体部には漬け掛けの施釉がみられるもので、折戸53号窯式<sup>(20)</sup>である。

###### イ) 捏立柱建物出土遺物

###### S B132出土遺物 (44)

土師器壺(44)は、口縁端部に面を持ち、胴部のハケ目は細かいものであり、奈良時代のものである。



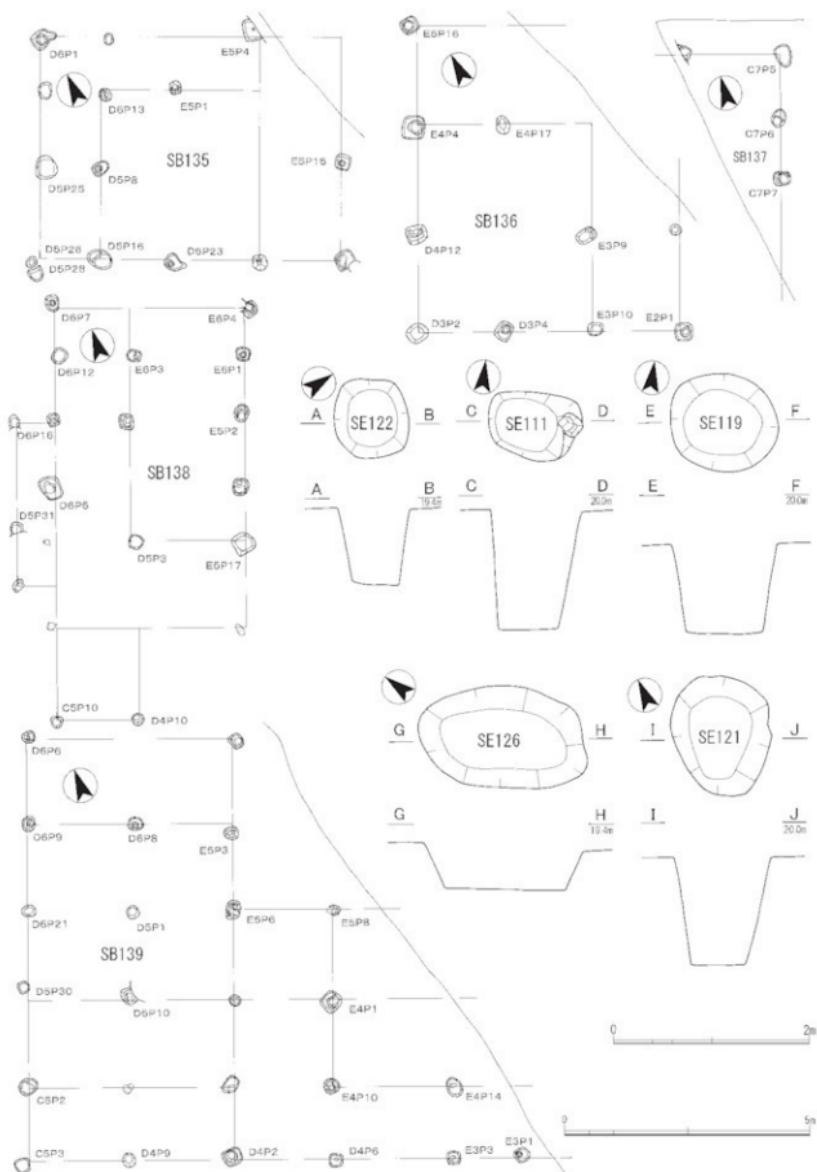
第7図 世古遺跡 S X 131遺物出土状況図 (1:20)



第8図 世古遺跡 SF124実測図 (1:50)

遺構番号	規 模	柱 間 法 (m)	方 位	柱 穴 (m)	柱 穴 pit名	時 代	出 土 遺 物
S B132	2間以上×2間に 北面庇	桁行2.4+3.3 梁行3.35等間 庇1.2	N51°W 径0.6	一辺0.6 径0.6	D4P4, E4P2・7・13・ SK15, ESP12	奈良	土師器壺(44)・鍋
S B133	3間×2間に 南面庇	桁行2.1+2.4+2.1 梁行1.5+1.5 庇1.5	N71°W	一辺0.3～0.6	C6P2, D5P1・3・30, D6P11・21, D7P2, E5SK20, E6P6	奈良?	土師器壺(45)・山茶桜(46)・ 灰釉陶器・土壺(47・48)
S B134	4間×3間以上に 西に張り出し	1.5+2.4+1.5+1.8 1.2+1.8+2.1	N19° E 壁石	一辺0.3～0.5 径0.6	D4P1, D5P6・13・19・22, D6P3, E4P11・17・18, E5P11・14・20, E6P2・5	平安	土師器壺(49)・皿(50～52)・ 高杯(53)・罐(54～57)・ 圓形土器(58)・山茶桜(59)・ 土壺(60)
S B135	4間×3間	1.2+1.5+1.8+1.65 1.2+1.5+1.8	N66° W	一辺0.3～0.4 径0.2～0.3	D5P8・16・23・25・26・28, D6P1・13, E5P1・4・15	室町	山茶桜
S B136	3間×3間	桁行2.1m等間 梁行1.8m等間	N28° E	一辺0.6 径0.4～0.6	D3P2・4, D4P12, E2P1, E3P9・10, E4P4・17, E5P16	室町	土師器皿(80～83)・ 壺・鍋(84～86)
S B137	2間以上×1間以上	1.2+1.2+α 2.1+α	N17° E	一辺0.2～0.4	C7P5・6・7	室町	山茶桜
S B138	5間×2間 南北と東西に張り出し	桁行 0.9+1.5+1.5+ 1.2+1.8+1.8 梁行 1.5+2.4	N17° E 壁石	一辺0.2～0.5 径0.2～0.3	C5P10, D4P10, D5P3・31, D6P5・7・12・16, E5P2・17, E6P1・3・4	室町	土師器皿(71～74)・ 鍋・灰釉陶器平盤
S B139	南北5間×2間と 東西3間以上×3間の L字状	南北 1.8+1.8+1.8+ 1.8+1.5 東西 2.1+2.1+2.1+ 2.4+1.5+α	N21° E 壁石	一辺0.2～0.4 径0.2～0.4	C5P2・3, D4P2・6・9, D5P1・10・30, D6P6・8・9・21, E3P1・3, 室町 E4P1・10・14, E5P3・6・8	土師器皿(75～77)・壺・鍋・ 山茶桜・青磁碗(79)	

第4表 世古遺跡B地区掘立柱建物一覧表



第9図 世古遺跡SB135～139・SE122・111・119・126・121実測図(1:100)

#### S B133出土遺物 (45 ~ 48)

土師器鍋(45)、山茶椀(46)は中世の遺物であるが、遺構の切り合い確認時の誤判断によるものであろう。土鍤(47)は重量22.8 g、土鍤(48)は17.7 gである。

#### S B134出土遺物 (49 ~ 60)

出土遺物には時期幅があるが、当該遺構の時期の遺物は、土師器杯(49)・甕(54 ~ 57)、山茶椀(59)で、いずれも小片である。土師器皿(50 ~ 52)は中世の遺物であるが、遺構の切り合い確認時の誤判断によるものであろう。また、土師器高杯(53)・筒型上器(58)は奈良時代の遺物である。土鍤(60)は重量15.1 gである。

#### ②鎌倉時代の遺構出土遺物

##### A) 井戸出土遺物

##### S E122出土遺物 (61 ~ 65)

土師器皿(61・62)はともに口縁端部ヨコナデである。土師器鍋(63 ~ 65)はいずれも体部上半をナデ、下半をヘラケズリで調整するものである。(63)は口縁端部上方に面をもつ。(64・65)は口縁端部を内側に折り返す。(65)には胴部中央に焼成後の穿孔がある。

##### イ) 溝出土遺物

##### S D107出土遺物 (66)

土師器皿(66)は、口縁端部はヨコナデである。

##### ウ) 土坑出土遺物

##### S K127出土遺物 (67 ~ 70)

土師器小皿(67)・皿(68・69)は、ともに口縁部はヨコナデである。土師器台付皿(70)は高台がつくものである。

#### ③室町時代の遺構出土遺物

##### A) 据立柱建物出土遺物

##### S B138出土遺物 (71 ~ 74)

土師器皿(71)は奈良時代の遺物である。土師器皿(72 ~ 74)は、口縁部をヨコナデ、体部から底部はオサエである。

##### S B139出土遺物 (75 ~ 79)

出土遺物には、土師器小皿(75)・皿(76・77)、灰釉陶器椀(78)、青磁椀(79)がある。土師器皿(76)と灰釉陶器椀(78)は平安時代の遺物である。青磁椀(79)は、内面に文様がみられ、内外面とも緑オリーブ色の釉が施される。

#### S B136出土遺物 (80 ~ 86)

土師器小皿(80)は口径8cmで、粘土紐接合痕がみられる。土師器皿(81 ~ 83)は体部が内湾して立ち上がるるもので、器壁は薄い。土師器鍋(84 ~ 86)はいずれも口縁端部を内側に折り返すものである。(86)は外面胴底部に煤が真っ黒に付着する。

##### イ) 井戸出土遺物

##### S E 111出土遺物 (87 ~ 109)

灰釉陶器(87)は平安時代の遺物である。

土師器皿(88・89)は内面にハケメがみられる。土師器皿(90)は口径13cm程になるものである。落とし蓋(91)は、内面に扁平なつまみがつく。土師器蓋(92)は口径13cm程になるもので、つまみがつく。

土師器鍋(93 ~ 99)は全部で7点図示した。(93)は、口径11cm程の小型のもので、胴部はナデ調整である。(94・95)は口径21cm程で、胴部と底部はヘラケズリである。(96)は口径24cm程で、胴部はハケメ、底部はヘラケズリで、口縁部は折り返して、先端を上方につまみあげる。外面に煤が付着する。(97)は口径30cm程で、底部はヘラケズリで、外面全体と内面底部に煤が真っ黒に付着する。(98・99)は口径40cm程で、胴部はハケメ、底部はヘラケズリで、外面には煤が全面に真っ黒に付着する。

土師器茶釜(100・101)は口径14cm程のものであり、土師器茶釜(102)は口径24cm程の大型のものである。土師器把手付丸鍋(103)は球胴になるものであり、(104)は平底で、把手は剥離している。土師器鉢(105・106)は2点図示したが、(106)は底部が平底で、体部は斜めに立ち上がり、口縁部は外反し、端部は上方につまみ上げる。

土製品(107)は両端を欠くが、棒状のもので、断面は径4 ~ 5 cmの楕円形である。

石製品では五輪塔があるが、(108)は水輪、(109)は火水地輪である。

##### S E119出土遺物 (110 ~ 114)

出土遺物には、土師器椀(110)・鍋(111)・甕(112)・羽釜(113・114)がある。羽釜(113)は口径17cm程で、口縁端部は内側に面を持つもので、鈴は高い位置に付いており、短く上方を向く。羽釜(114)は小片のため口径は不明であるが、(113)よりも大型で、口縁部は内傾し、端部は外側に折り曲

遺構名	調査時 遺構名	小地区	形状又 は方向	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	時代	主な出 土 遺 物	備 考
SD101	SD1	D 5 E 6	N17° E	5以上	0.3	0.1	室町	土師器皿、陶器常滑窯、青磁等	SD106・114と平行 SK110・SF125より新
SD102	SD2	D 7 E 6	N77° W	3以上	0.2	0.05	室町		SD103・104と平行
SD103	SD3	D 6 E 6	N77° W	2.2以上	0.2	0.1	室町	土師器皿	SD102・104と平行
SD104	SD4	D 6	N77° W	1.6以上	0.2	0.05	室町		SD102・103と平行
SK105	SK5	C 5	方形	2.7	2.3	0.3	室町	土師器皿 (160～162)・總 (163・164)・ 縦 (165・166)・羽釜 (167)、茶釜 (168)、 山茶碗 (169)、土製品、磁石 (170)	SF124・整地層より新
SD106	SD6	E 3	N17° E	3.5以上	0.3	0.05	室町	土師器皿・總・把手付丸鍋 (146)・羽釜、 陶器等	SD101・114と平行 SK130より新
SD107	SD7	C 7	N 6° E	6以上	0.6	0.1	鎌倉	土師器皿 (66)・總・羽釜、陶器	S K130より新
*108	SK8								欠番
SK109	SK9	C 5	橢円形	0.9	0.6	0.1	室町	土師器茶釜 (171・172)・十能 (173)	整地層より新
SK110	SK10	D 5	円形	径1.5		0.2	室町	土師器皿 (175)・總 (174)・縦 (176)・ 縦 (177・178)、灰釉陶器 (180)、 陶器等 (181)、土鍬 (179)、磁石 (182)	SD101より古
SE111	SE11	E 5	方形	0.7	0.9	1.2	室町	土師器皿 (88～90)・蓋 (91・92)・ 縦 (93～99)・羽釜 (100～102)、 把手付丸鍋 (103・104)・鉢 (105・106)、 灰釉陶器 (87)、土製品 (107)、 五輪塔 (108・109)	
*112	SD12								欠番
SD113	SD13	E 3	N79° W	3.5以上	0.2	0.05	室町	土師器皿・總・山茶碗	SD114・SK116より新
SD114	SD14	E 3 E 4 D 2	N13° E	11以上	0.6～1.0	0.1～0.2	室町	土師器皿・杯 (150)・總 (148)・縦 (149)・ 十能、須恵器等 (147)、灰釉陶器 (151)、 陶器等 (152)、青磁碗 (153)、 土製品 (154～157)	SD101・106と平行 SK127より新 SD113より古
*115	SK15								SB132の柱穴
SK116	SK16	E 3	不明	1	0.5以上	0.1	不明	土師器	SD114より古
SK117	SK17	E 4	円形	径1.1		0.2	室町	灰釉平鉢	SE121より古
SE118	SE18	E 2	円形	径1.0		1.1	平安	土師器皿・甕、陶器常滑窯	
SE119	SE19	D 3	円形	径1.0		0.8	室町	土師器皿・總・(110)・縦 (111)・縦 (112)・ 羽釜 (113～114)・山茶碗、常滑窯陶器、 スサ入り粘土	整地層より新
*120	SK20								SB133の柱穴
SE121	SK21	D 4	橢円形	1.2	1.1	1.1	室町	土師器小皿・甕・蓋・鍋 (116)・十能 (115)・ 山茶碗、灰釉陶器等 (117)	SK117より新
SE122	SE22	D 2 D 3	方形	0.8	0.8	0.8	鎌倉	土師器皿 (61・62)・總 (63～65)	整地層より古 調査時番号重複
SF124	S K24	C 6	不明	4以上	3.5	0.3	室町	土師器皿 (183～187)・總 (188～194)・ 蓋 (195)・縦 (196～199)・甕 (200・201)・ 羽釜 (202)・鉢 (203)・方形窓付土器 (204)・ 山茶碗 (205)、天目茶碗 (206)	SK130より新 SK105より古
SF125	S F25	D 5	不明	不明	不明	0.1	奈良 平安	土師器等 (38)・杯 (39)・皿 (40)・高杯 (41)・ 甕 (42)、灰釉陶器 (43)	SD101より古
SE126	SE26	D 2	橢円形	1	1.7	0.5	室町	土師器皿 (118～126)・總 (127～133)・ 蓋 (134)・縦 (135～137)・ 羽釜 (140・141)・茶釜 (138・139)・鉢 (142)・ 山茶碗 (143)、陶器等 (144)・土製品 (145)	整地層より新
SK127	SK27	E 2	方形	0.8	0.8	0.4	鎌倉	土師器皿 (67～69)・台付皿 (70)・總、陶器	SD114より古
SK128	SK28	D 5	方形	0.9	0.9	0.2	不明		
*129	SK29								欠番
SK130	SK30	C 6	円形	径2.5		0.8	平安	土師器杯皿類・甕、須恵器等、陶器	SD106・107・SF124 より古
S X131	C7P8	C 6 C 7	方形	0.6	0.3	0.2	室町	土師器皿 (158・159)	
S K140	S K22	C 4	橢円形	1.1	0.6	0.1	不明		整地層より新 調査時番号重複

第5表 世古遺跡B地区井戸・溝・土坑一覧表

げる。鍔はほぼ水平になる。

#### S E 121出土遺物 (115~117)

土師器十能(115)は把手部分の破片である。土師器鉗(116)は体部ハケメ、底部はオサエのちナデである。施釉陶器椀(117)は、高台貼り付けで、底部には糸切り痕がみられる。内面にはオリーブ灰色の施釉がある。

#### S E 126出土遺物 (118~145)

土師器小皿(118~124)は7点図示したが、(118~120)は口径6cm、(121~124)は口径8cmのものである。土師器皿(125・126)は体部から口縁部が二段になるものである。

土師器椀(127~133)は7点図示した。(127・128)は口径6cm程であるが、歪みがはげしく、体部内面には工具痕がみられる。(127)には底部外側に油煙痕がみられる。(129)は口径7cmを越えるもので内面底部にハケメがみられる。(130~132)は口径9cm程である。(133)は高台が付くものであるが、高台の接地部2箇所に油煙痕がみられることから、倒立して灯明具として使用したと思われる。

土師器落とし蓋(134)は体部に穿孔がみられる。

土師器鍋(135)は口径12cm程の小型のものである。土師器鉗(136・137)は、口径20cm前後で体部はナデ、底部はケズリである。口縁部は(136)は端部を内側に折り曲げるものであり、(137)は折り曲げた後、上方につまみあげる。鍋は3点とも煤はつかない。

土師器茶釜(138・139)はともに口径14cm程のものであるが、(138)は口縁端部が外に開き、(139)は外側に折り返す。

土師器羽釜(140・141)は、鍔が短く上方を向く。

土師器鉢(142)は球胴状で、口縁端部は肥厚する。

陶器擂鉢(144)は底部に糸切り痕がみられる。

土製品(145)は片端を欠損するが、棒状で先端は丸く、断面は楕円形である。

混入品としては山茶椀(143)がある。

#### ウ) 溝出土遺物

#### S D 106出土遺物 (146)

土師器把手付丸鍋(146)は、口径11cm程のもので、把手が剥離している。

#### S D 114出土遺物 (147~157)

当該遺構の時期の遺物は、土師器椀(148)・廉(149)、土製品(154~157)である。土師器杯(150)、灰釉陶器(151)、陶器壺(152)、青磁椀(153)、須恵器廉(147)は古い時期のもので混入品である。

#### エ) 墓出土遺物

#### S X 131出土遺物 (158・159)

土師器皿(158)は完形で、副葬品である。(159)は埋土出土の破片である。

#### オ) 土坑出土遺物

#### S K 105出土遺物 (160~170)

出土遺物には、土師器小皿(160)・皿(161・162)・椀(163・164)・鍋(165・166)・羽釜(167)・茶釜(168)、山茶椀(169)、砥石(170)がある。羽釜(167)は小片であるが、口縁部に穿孔がある。砥石(170)は両端を欠損するが、四面ともよく使用されている。

#### S K 109出土遺物 (171~173)

土師器茶釜(171・172)・十能(173)がある。

#### S K 110出土遺物 (174~182)

出土遺物には、土師器皿(175)・杯(174)・椀(176)・器種不明(177・178)、灰釉陶器(180)、陶器鉢(181)、土鍤(179)、砥石(182)等がある。

器種不明(178)は、残存長12cm、径5cm程の円柱形であるが、下部は外に開くもので、内部は中空となる。類例としては、玉城町内の蚊山遺跡佐都地区<sup>(27)</sup> S B 28出土の器台柱状部とされているもの、岩出地区内遺跡群ケカノ辻・角垣内地区<sup>(28)</sup> S Z 442出土の脚台付小皿とされているものがある。

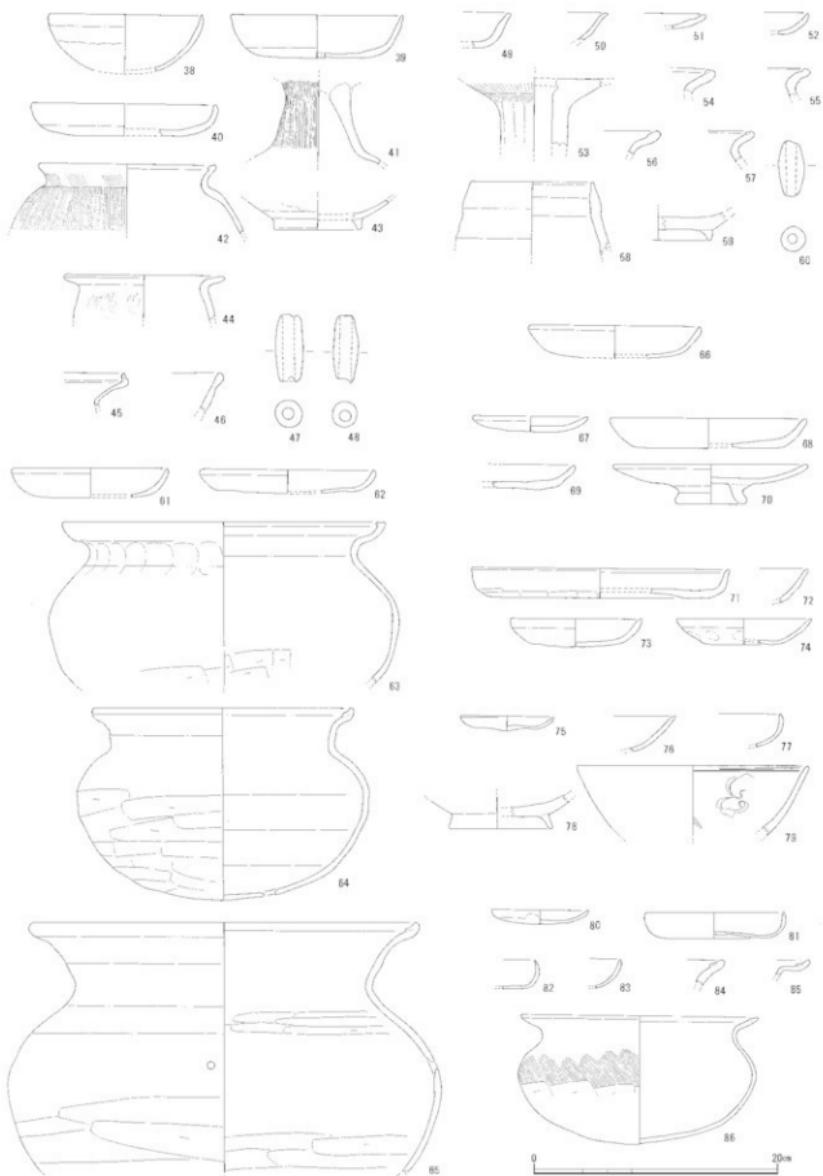
#### カ) 土器焼成坑出土遺物

#### S F 124出土遺物 (183~206)

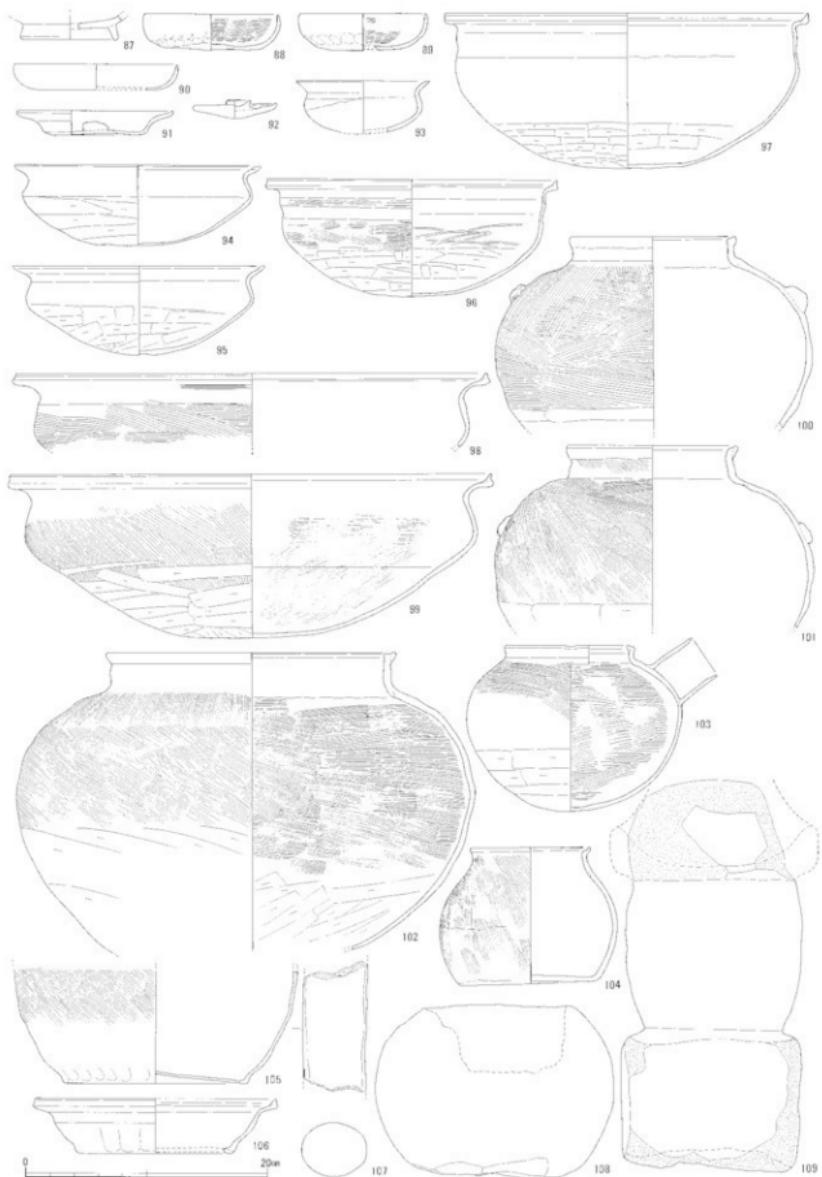
出土遺物には、土師器皿(183~187)・椀(188~194)・蓋(195)・鍋(196~199)・廉(200・201)・羽釜(202)・鉢(203)・方形窓付土器(204)、山茶椀(205)、陶器天目茶椀(206)がある。

土師器皿(186)は口縁部に油煙痕があり、また椀(188)は内面の口縁部全体と底部に油煙痕がある。ともに灯明具として使用されたものであろう。

土師器方形窓付土器(204)は、口径9.5cm、器高19.2cm、胴部最大径18cm、底径15cmである。器壁は0.4cmと薄く、この時期の土師器鉗、甕類と同



第10図 世古遺跡B地区遺物実測図 1 (1:4)



第11図 世古遺跡B地区遺物実測図2 (1:4)

じ傾向を持つ。底部は平底で、胴部は丸みを帯び、頭部は内傾し、口縁部は外に開き、全体の形態は甕に近い。胴部に7cm×11cmの大きさで方形の窓を焼成前に開ける。口縁部はヨコナデ、胴部外面はハケメ、底部外面には圧痕がみられる。口縁部に油煙痕が8箇所みられることから、灯明具として使用された可能性が高い。三重県内では類例のないものである。

#### ④整地層出土遺物 (207～216)

整地層からの出土遺物には、土師器鍋(207～212)・把手付丸鍋(213)・甕(214)・茶釜(216)・羽釜(215)がある。

#### ⑤その他のピット出土遺物 (217～301)

ピット出土遺物(217～301)は、奈良時代から中世にかけての遺物である。土師器種不明(270)は、下部の開きが大きくなるものである。山茶椀(296)は、底部に墨書きがみられるが、おそらく「×」であろう。

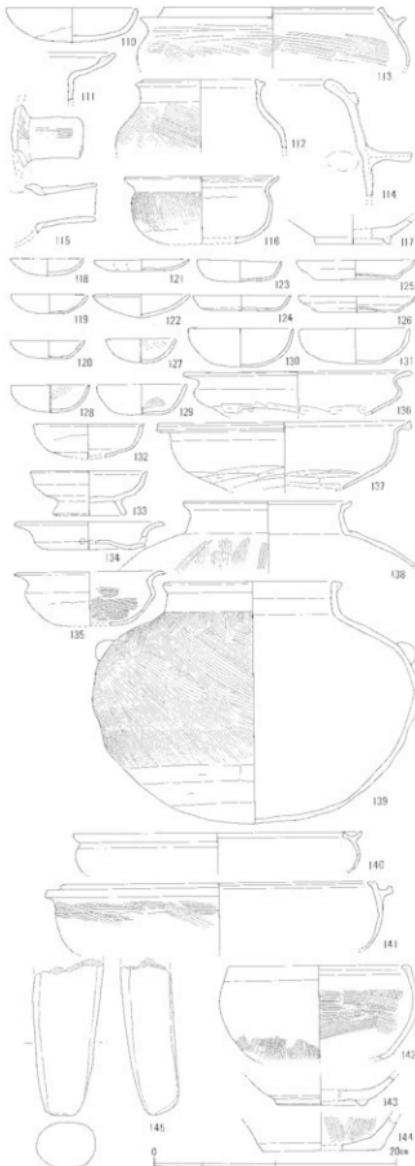
#### ⑥包含層等の出土遺物 (302～415)

奈良時代の出土遺物には、土師器皿(302～304)・蓋(305・306)がある。

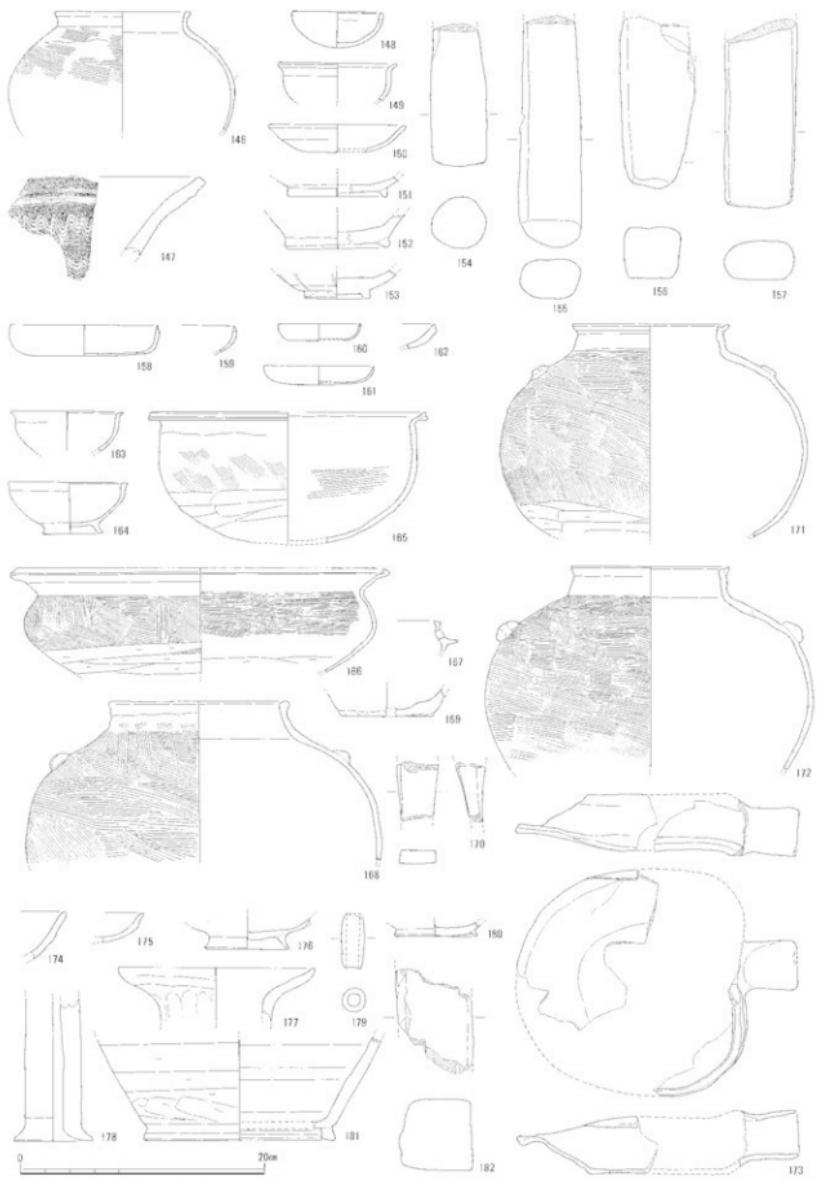
平安時代の遺物には、土師器甕(307)・緑釉陶器(308)、灰釉陶器椀(309)、山茶椀(310～316)・鉢(318・319)、陶器皿(317・320)、青磁椀(321)がある。緑釉陶器(308)の胎土は軟質である。山茶椀(314・315)の底部には墨書きがみられる。

室町時代の遺物には土師器小皿(322～330)・椀(331～337)・皿(338～340)・落とし蓋(341)・台付椀(342～345)・鍋(346)・器種不明(347)・茶釜(348)・十能(349・351)・把手付鍋(350)、陶器皿(352・353)・天目茶椀(354)、土鍤(355～402)、土製品(403～411)、加工円盤(412～414)、鉄製品短刀(415)がある。器種不明の土師器(347)は、内面口縁部に煤が真っ黒に付着している。土製品(408)は上部が剥離しており、全容は不明であるが、残存長8cm、径3.5cmの円柱形で、径1cmの穴がある。鉄製品短刀(415)は、残存長24cmであるが、全長は30cm程になると推定される。出土地点の近くで検出した中世墓S X 131の副葬品であった可能性もある。

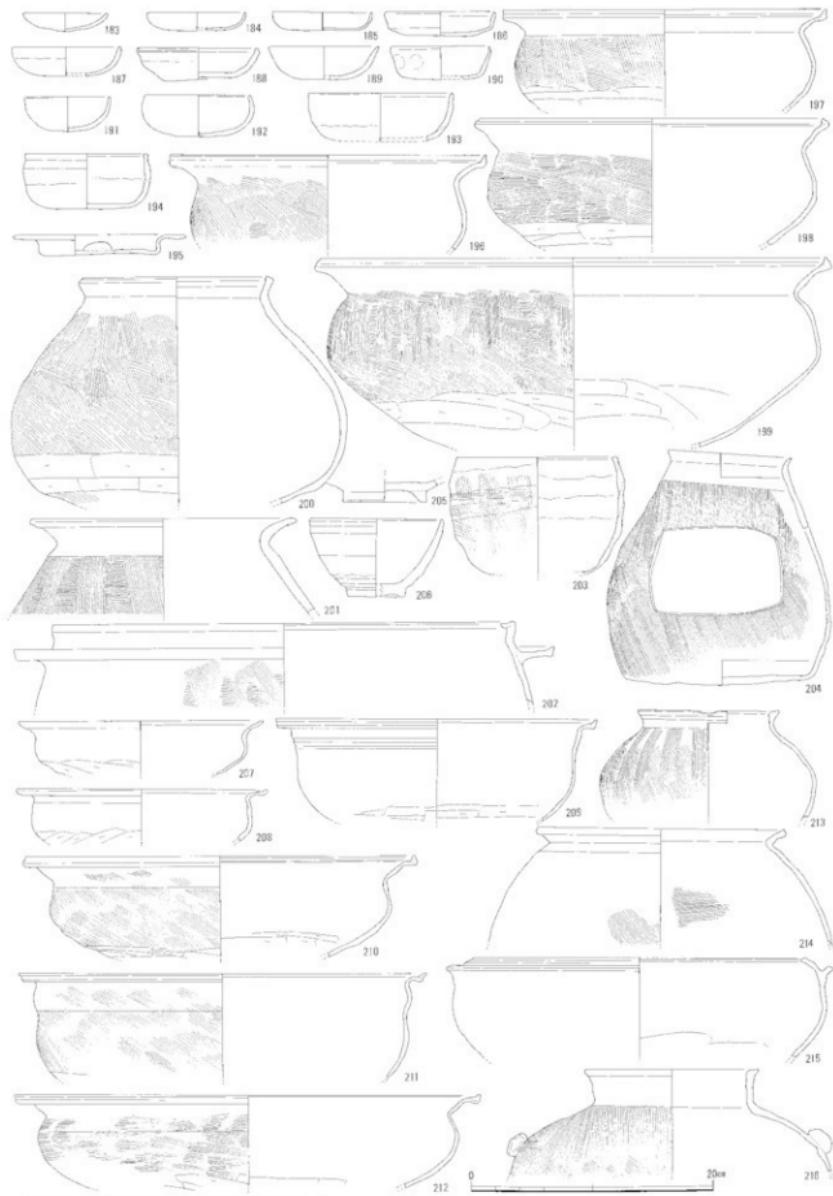
(河北秀実)



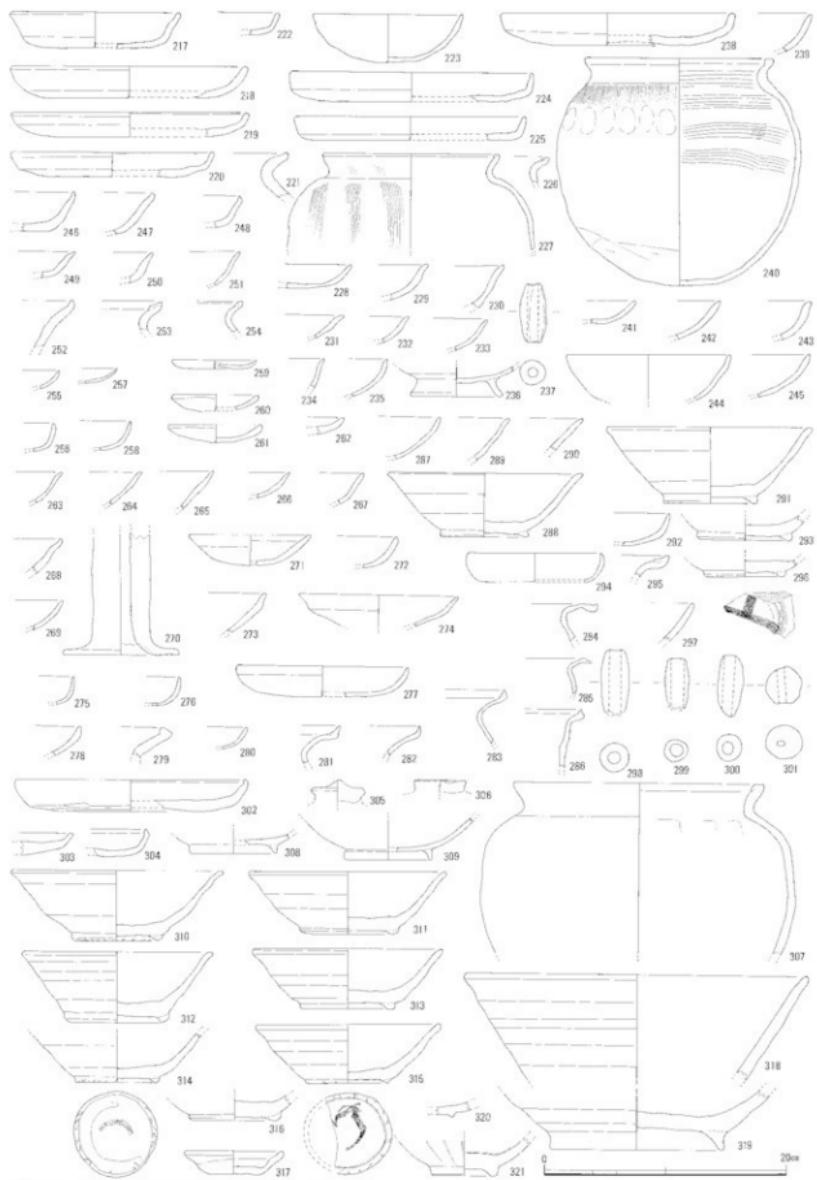
第12図 世古遺跡B地区遺物実測図3 (1:4)



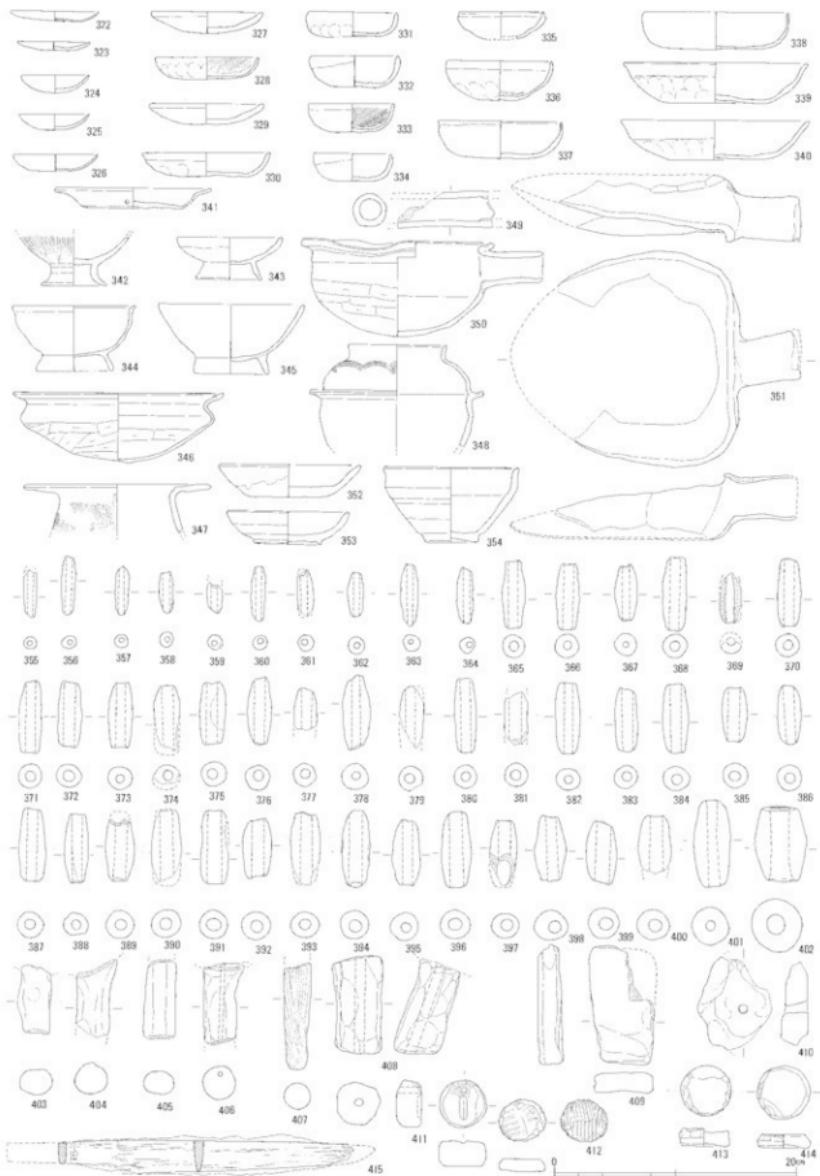
第13図 世古遺跡B地区遺物実測図4 (1:4)



第14図 世古遺跡B地区遺物実測図 5 (1:4)



第15図 世古遺跡B地区遺物実測図 6 (1:4)



第16図 世古遺跡B地区遺物実測図 7 (1:4)

番号	整理番号	種類	出土位置
38	030-07	土師器椀	SF125
39	030-08	土師器杯	SF125
40	030-04	土師器皿	SF125
41	030-05	土師器高杯	SF125
42	030-06	土師器甕	SF125
43	033-04	灰釉陶器椀	SF125
44	016-10	土師器甕	SB132D4P4
45	023-09	土師器鍋	SB133D7P2柱痕跡
46	016-04	山茶椀	SB133C6P2
47	017-10	土製品土鍾	SB133D5P1
48	017-09	土製品土鍾	SB133D5P1柱痕跡
49	024-07	土師器杯	SB134D5P2
50	018-07	土師器皿	SB134D5P6
51	027-07	土師器皿	SB134E4P17
52	028-04	土師器皿	SB134E5P11
53	020-07	土師器高杯	SB134D5P20
54	028-03	土師器甕	SB134E5P11
55	027-06	土師器甕	SB134E5P14
56	027-08	土師器甕	SB134E4P17
57	020-04	土師器甕	SB134D5P13
58	018-04	土師器筒型土器	SB134D5P6
59	025-07	山茶椀	SB134E4P17
60	021-06	土製品土鍾	SB134D5P13
61	053-01	土師器皿	SE122
62	053-02	土師器皿	SE122
63	053-03	土師器鍋	SE122
64	054-01	土師器鍋	SE122
65	055-01	土師器鍋	SE122
66	032-05	土師器皿	SD107
67	043-02	土師器小皿	SK127
68	042-03	土師器皿	SK127
69	043-03	土師器皿	SK127
70	043-01	土師器台付皿	SK127
71	018-01	土師器皿	SB138D5P3
72	027-11	土師器皿	SB138E6P3柱痕跡
73	018-03	土師器皿	SB138D5P5
74	018-02	土師器皿	SB138D5P3
75	016-11	土師器小皿	SB139D4P6
76	017-07	土師器皿	SB139D5P1
77	017-06	土師器皿	SB139D4P6
78	023-14	灰釉陶器椀	SB139D6P8
79	024-01	青磁碗	SB139D6P8
80	025-02	土師器小皿	SB136E3P9
81	025-03	土師器皿	SB136E3P9
82	025-08	土師器皿	SB136E3P9
83	025-04	土師器皿	SB136E3P9
84	025-13	土師器鍋	SB136E4P4
85	026-05	土師器鍋	SB136E3P9
86	026-01	土師器鍋	SB136E3P9
87	014-07	灰釉陶器	SE111
88	014-01	土師器皿	SE111
89	014-04	土師器皿	SE111
90	014-05	土師器皿	SE111
91	014-03	土師器落とし蓋	SE111
92	014-06	土師器蓋	SE111
93	014-02	土師器鍋	SE111
94	003-01	土師器鍋	SE111
95	012-01	土師器鍋	SE111
96	015-02	土師器鍋	SE111
97	013-01	土師器鍋	SE111
98	059-01	土師器鍋	SE111
99	001-01	土師器鍋	SE111
100	010-01	土師器茶釜	SE111

番号	整理番号	種類	出土位置
101	009-01	土師器茶釜	SE111
102	002-01	土師器茶釜	SE111
103	006-02	土師器把手付丸鍋	SE111
104	005-01	土師器把手付丸鍋	SE111
105	011-01	土師器鉢	SE111
106	012-02	土師器鉢	SE111
107	015-01	土製品	SE111
108	059-02	五輪塔水輪	SE111
109	058-01	五輪塔火水地輪	SE111
110	042-06	土師器椀	SE119
111	042-02	土師器鍋	SE119
112	042-05	土師器甕	SE119
113	042-04	土師器羽釜	SE119
114	042-01	土師器羽釜	SE119
115	043-06	土師器十能	SE121
116	032-01	土師器鉢	SE121
117	043-04	施釉陶器椀	SE121
118	050-03	土師器小皿	SE126
119	050-02	土師器小皿	SE126
120	051-02	土師器小皿	SE126
121	051-01	土師器小皿	SE126
122	051-09	土師器小皿	SE126
123	051-03	土師器小皿	SE126
124	050-05	土師器小皿	SE126
125	051-04	土師器皿	SE126
126	050-06	土師器皿	SE126
127	050-04	土師器椀	SE126
128	050-01	土師器椀	SE126
129	052-01	土師器椀	SE126
130	050-09	土師器椀	SE126
131	050-07	土師器椀	SE126
132	050-08	土師器椀	SE126
133	051-05	土師器椀	SE126
134	052-02	土師器落とし蓋	SE126
135	051-06	土師器鍋	SE126
136	046-03	土師器鍋	SE126
137	047-02	土師器鍋	SE126
138	046-01	土師器茶釜	SE126
139	007-01	土師器茶釜	SE126
140	045-03	土師器羽釜	SE126
141	047-01	土師器羽釜	SE126
142	046-02	土師器鉢	SE126
143	051-07	山茶椀	SE126
144	051-08	陶器遺跡	SE126
145	052-03	土製品	SE126
146	032-04	土師器把手付丸鍋	SD106
147	033-06	須恵器甕	SD114
148	032-02	土師器椀	SD114
149	032-03	土師器甕	SD114
150	033-01	土師器杯	SD114
151	033-05	灰釉陶器	SD114
152	033-02	陶器蓋	SD114
153	033-03	青磁碗	SD114
154	034-01	土製品	SD114
155	034-03	土製品	SD114
156	034-04	土製品	SD114
157	034-02	土製品	SD114
158	016-09	土師器皿	SX131
159	017-02	土師器皿	SX131
160	040-04	土師器小皿	SK105
161	040-03	土師器皿	SK105
162	040-02	土師器皿	SK105
163	075-05	土師器椀	SK105

第6表 世古遺跡B地区遺物一覧表1

番号	整理番号	種類	出土位置
164	075-06	土師器碗	SK105
165	041-01	土師器鍋	SK105
166	040-01	土師器鍋	SK105
167	040-07	土師器羽釜	SK105
168	041-02	土師器茶釜	SK105
169	040-05	山茶椀	SK105
170	040-06	磁石	SK105
171	057-01	土師器茶釜	SK109
172	056-01	土師器茶釜	SK109
173	044-01	土師器十能	SK109
174	03 7-03	土師器杯	SK110
175	038-04	土師器皿	SK110
176	039-04	土師器椀	SK110
177	039-03	土師器	SK110
178	038-03	土師器	SK110
179	066-06	土製品土躰	SK110
180	039-05	灰釉陶器	SK110
181	037-02	陶器鉢	SK110
182	039-01	磁石	SK110
183	049-05	土師器小皿	SF124
184	049-04	土師器皿	SF124
185	048-05	土師器皿	SF124
186	048-03	土師器皿	SF124
187	048-02	土師器皿	SF124
188	049-01	土師器椀	SF124
189	048-08	土師器椀	SF124
190	049-02	土師器椀	SF124
191	048-06	土師器椀	SF124
192	048-07	土師器椀	SF124
193	049-03	土師器椀	SF124
194	048-01	土師器椀	SF124
195	005-03	土師器落とし蓋	SF124
196	038-02	土師器鍋	SF124
197	039-02	土師器鍋	SF124
198	045-01	土師器鍋	SF124
199	037-01	土師器鍋	SF124
200	008-01	土師器甕	SF124
201	038-01	土師器甕	SF124
202	045-02	土師器羽釜	SF124
203	043-05	土師器鉢	SF124
204	003-02	土師器方形窓付土器	SF124
205	048-04	山茶椀	SF124
206	048-09	陶器天目茶碗	SF124
207	029-03	土師器鍋	C4整地層
208	030-01	土師器鍋	C4整地層
209	035-01	土師器鍋	C4整地層
210	036-01	土師器鍋	C4整地層
211	035-02	土師器鍋	C4整地層
212	036-02	土師器鍋	C4整地層
213	030-02	土師器把手付丸鍋	C4整地層
214	029-02	土師器甕	C4整地層
215	036-03	土師器羽釜	C4整地層
216	029-01	土師器茶釜	C4整地層
217	027-02	土師器杯	ESP19
218	027-01	土師器皿	ESP19
219	027-04	土師器皿	ESP19
220	027-03	土師器皿	ESP19
221	027-05	土師器甕	ESP19
222	017-04	土師器皿	D3P1
223	019-02	土師器椀	DSP7
224	019-03	土師器皿	DSP7
225	019-04	土師器皿	DSP7
226	018-10	土師器甕	DSP7

番号	整理番号	種類	出土位置
227	019-01	土師器甕	DSP7
228	019-08	土師器皿	DSP7
229	019-09	土師器皿	DSP7
230	018-09	土師器皿	DSP7
231	018-08	土師器皿	DSP7
232	019-07	土師器皿	DSP7
233	021-04	土師器皿	DSP7
234	019-10	土師器皿	DSP7
235	019-06	土師器皿	DSP7柱痕跡
236	019-05	土師器椀	DSP7
237	018-11	土製品土鍾	DSP7
238	024-08	土師器皿	DSP21
239	020-08	土師器皿	DSP21
240	022-01	土師器甕	DSP11
241	020-02	土師器皿	DSP11
242	021-03	土師器皿	DSP11
243	020-09	土師器皿	DSP11
244	021-01	土師器椀	DSP11
245	021-05	土師器椀	DSP11
246	016-07	土師器杯	C7P1
247	021-02	土師器杯	DSP18
248	025-10	土師器杯	E4P15
249	017-03	土師器皿	D3P1
250	024-05	土師器皿	DSP23
251	020-05	土師器杯	DSP14
252	016-08	土師器甕	C7P1
253	017-01	土師器甕	C7P5
254	020-06	土師器甕	DSP15
255	028-07	土師器小皿	ESP13
256	028-08	土師器皿	ESP13
257	016-12	土師器小皿	C7P3
258	016-13	土師器皿	C7P3
259	023-11	土師器小皿	D6P16
260	028-06	土師器小皿	ESP12
261	028-05	土師器小皿	ESP12
262	025-11	土師器皿	E4P16
263	027-10	土師器皿	E6P2
264	027-09	土師器皿	E6P2
265	018-05	土師器皿	DSP2
266	018-06	土師器皿	DSP2
267	023-06	土師器皿	E2P3
268	028-01	土師器皿	ESP1柱痕跡
269	028-02	土師器皿	ESP1柱痕跡
270	028-09	土師器	ESP1柱痕跡
271	023-12	土師器皿	D6P14
272	023-04	土師器皿	E2P6
273	017-05	土師器皿	D4P5
274	023-13	土師器皿	D6P18
275	025-05	土師器皿	E4P8
276	020-03	土師器皿	DSP12
277	023-05	土師器皿	E2P6
278	023-02	土師器皿	E3P4柱痕跡
279	023-03	土師器甕	E3P4
280	023-01	土師器皿	E3P6
281	025-12	土師器甕	E3P6
282	016-06	土師器甕	C6P2
283	023-10	土師器甕	D7P1
284	016-02	土師器甕	C4P7
285	016-01	土師器甕	C4P7
286	016-03	土師器甕	C4P7
287	024-02	土師器皿	D6P2
288	024-03	山茶椀	D6P2
289	016-05	山茶椀	C6P2

第7表 世古遺跡B地区遺物一覧表2

番号	整理番号	種類	出土位置
290	024-06	山茶碗	DSP23
291	020-01	山茶碗	DSP16
292	023-08	土師器皿	E2P2
293	023-07	山茶碗	E2P2
294	025-01	土師器皿	E4P6
295	026-04	土師器皿	E4P6
296	025-06	山茶碗	E4P6
297	025-09	土師器皿	E4P5
298	026-03	土製品土鍾	E4P5
299	026-02	土製品土鍾	E4P5
300	024-04	土製品土鍾	DSP26
301	017-08	土製品土鍾	CSP4
302	063-01	土師器皿	D5包含層
303	063-03	土師器皿	E1包含層
304	063-02	土師器皿	D5包含層
305	062-09	土師器皿	南トレンチ
306	065-07	土師器皿	D3包含層
307	066-01	土師器皿	C6包含層
308	065-05	綠釉陶器	D6包含層
309	062-02	灰釉陶器碗	南トレンチ
310	064-02	山茶碗	不明
311	064-01	山茶碗	C5包含層
312	060-01	山茶碗	E1包含層
313	066-02	山茶碗	C5包含層
314	060-02	山茶碗	東トレンチ道
315	060-03	山茶碗	東トレンチ道
316	062-04	山茶碗	南トレンチ
317	063-04	焦祐陶器小皿	D6包含層
318	060-05	陶器鉢	C7トレンチ
319	060-04	陶器鉢	C7トレンチ
320	065-06	陶器皿	D6包含層
321	061-10	青磁碗	E5包含層
322	069-03	土師器皿小皿	C5包含層
323	065-04	土師器皿小皿	D6包 灰紫
324	065-02	土師器皿小皿	D6包含層
325	065-03	土師器皿小皿	D6包含層
326	062-08	土師器皿小皿	南トレンチ
327	063-05	土師器皿小皿	E4包 灰粘質
328	067-03	土師器皿小皿	C6包含層
329	063-06	土師器皿小皿	E4包 灰粘質
330	069-01	土師器皿小皿	C4包含層
331	067-02	土師器皿	C5包含層
332	061-11	土師器皿	西トレンチ
333	062-07	土師器皿	南トレンチ
334	061-12	土師器皿	西トレンチ
335	049-06	土師器皿	C7包含層
336	062-05	土師器皿	南トレンチ
337	065-01	土師器皿	D6包含層
338	069-05	土師器皿	C5包含層
339	066-03	土師器皿	C3包含層
340	066-04	土師器皿	C3包含層
341	030-03	土師器落とし蓋	C5包含層
342	067-04	土師器皿	C7包含層
343	049-07	土師器皿	C4包含層
344	069-02	土師器皿	C4包含層
345	066-05	土師器皿	C4包含層
346	005-02	土師器皿	C6包含層
347	062-06	土師器	西トレンチ
348	062-10	土師器茶釜	南トレンチ
349	067-10	土師器十能	C7包含層
350	006-01	土師器把手付鍋	トレンチ
351	004-01	土師器十能	D4包含層
352	062-01	陶器皿	南トレンチ

番号	整理番号	種類	出土位置
353	067-01	施釉陶器皿	C5包含層
354	062-03	陶器天目茶碗	東トレンチ
355	077-07	土製品土鍾	D6包含層
356	031-12	土製品土鍾	D5包含層
357	031-14	土製品土鍾	D5包含層
358	061-09	土製品土鍾	D6包 灰紫
359	077-08	土製品土鍾	D6包含層
360	031-13	土製品土鍾	D5包含層
361	077-06	土製品土鍾	D6包含層
362	061-08	土製品土鍾	D6包 灰紫
363	031-10	土製品土鍾	D5包含層
364	031-11	土製品土鍾	D5包含層
365	064-10	土製品土鍾	D6包含層
366	031-07	土製品土鍾	D5包含層
367	077-01	土製品土鍾	D6包含層
368	061-02	土製品土鍾	D6包 灰紫
369	077-09	土製品土鍾	D6包
370	061-01	土製品土鍾	D6包 灰紫
371	061-03	土製品土鍾	D6包 灰紫
372	077-02	土製品土鍾	D6包含層
373	077-04	土製品土鍾	D6包含層
374	061-07	土製品土鍾	D6包 灰紫
375	077-03	土製品土鍾	D6包含層
376	031-03	土製品土鍾	D5包含層
377	064-11	土製品土鍾	D6包含層
378	031-02	土製品土鍾	D5包含層
379	064-07	土製品土鍾	D5包含層
380	031-06	土製品土鍾	D5包含層
381	063-08	土製品土鍾	D3包含層
382	069-04	土製品土鍾	C5包含層
383	064-09	土製品土鍾	D5包 灰紫
384	064-12	土製品土鍾	D4包 灰紫
385	064-03	土製品土鍾	D5包含層
386	065-10	土製品土鍾	D5包含層
387	064-04	土製品土鍾	D6包含層
388	031-01	土製品土鍾	C5包含層
389	077-05	土製品土鍾	D6包含層
390	061-06	土製品土鍾	D6包 灰紫
391	065-08	土製品土鍾	D5包含層
392	031-08	土製品土鍾	D6包含層
393	061-05	土製品土鍾	D6包 灰紫
394	061-04	土製品土鍾	D6包 灰紫
395	031-05	土製品土鍾	D5包含層
396	064-06	土製品土鍾	D5包含層
397	031-09	土製品土鍾	D5包含層
398	031-04	土製品土鍾	D5包含層
399	064-08	土製品土鍾	D4包含層
400	064-05	土製品土鍾	D5包 灰紫
401	063-09	土製品土鍾	D6包含層
402	063-07	土製品土鍾	D3包含層
403	061-14	土製品	E5包含層
404	067-08	土製品	C4包含層
405	067-09	土製品	C5包含層
406	067-07	土製品	C7包含層
407	065-09	土製品	D4包 灰紫
408	063-11	土製品	D3包含層
409	063-10	土製品	表面採集
410	061-13	土製品	西トレンチ
411	065-11	土製品	D4包含層
412	067-05	陶器円盤	C7包含層
413	067-06	陶器円盤	C7包含層
414	068-04	陶器円盤	C4包含層
415	078-01	鉄製品短刀	C6包含層

第8表 世古跡跡B地区遺物一覧表3

## 5 結語

世古遺跡は発掘調査により奈良時代から室町時代にかけての遺跡であることが判明した。以下、各時代での特筆すべき点を中心まとめておく。

### (1) 奈良～平安時代の土器焼成坑

世古遺跡では奈良時代の掘立柱建物、土器焼成坑が確認され、斎宮周辺にみられる土器生産を行っていた集落の一つであることが判明した。

古代の土器焼成坑はA地区でSF1、B地区でSF125の計2基を確認した。SF1は平面形が隅丸二等辺三角形で、奈良時代の遺構である。SF125は後世の遺構により大部分が破壊を受けており、遺構の形状からの時期判断は困難である。出土遺物は、奈良時代と平安時代中期に分かれるが、後世の遺構が複雑に切り合っており、遺物の混入の可能性も考えられるため、遺構の実年代についての判断は避けおきたい。

なお、時期は少し新しくなるが、平安時代末頃の土器焼成坑またはその関連遺構が、明和町の黒土遺跡<sup>290</sup>と本郷遺跡<sup>291</sup>、四日市市の小牧北遺跡<sup>291</sup>で検出されている。

### (2) 鎌倉時代の出土遺物と「世古村」

中世の世古は、延慶元(1239)年5月7日の大原岩牛子島地賣券寫に「度會郡継橋郷乃世古村」、正應6(1293)年4月12日の中臣近光島地賣券に「度會郡継橋郷乃瀬古」とみえ<sup>292</sup>、文献上では13世紀にはすでに村が成立していたことがわかる。発掘調査で検出した鎌倉時代の遺構の中でB地区の井戸SE122からは良好な遺物が出土している。土師器鍋(63)は伊藤編年<sup>293</sup>の第2段階b型式であり、鍋(64・65)は第1段階b型式である。したがって遺物の年代としては、概ね13世紀の中葉から後葉である。文献と出土遺物の時期とは一致しており、世古遺跡が、文献にみられる「世古村」「瀬古」であると考えて間違はないであろう。

### (3) B地区の室町時代の遺構配置と時期

室町時代の世古遺跡は他の時代に比べて、遺構、遺物とも豊富である。B地区では掘立柱建物・井戸・溝・墓・土器焼成坑などの遺構を検出した。調査区南西部には整地層があるが、鎌倉時代の井戸SE

122の廃絶後に整地されたものである。整地後に掘立柱建物SB136・139、井戸SE119・126、土坑SK105・109が構築されており、屋敷地を確保するため調査区南西部を埋め立て、整地したと考えられる。

掘立柱建物は5棟検出しているが、このうち調査区北東部では重複関係と方位からSB135・136・138・139と四回の建て替えが想定できる。溝SD101・106・114の3条の溝は、7～7.5m程離れてほぼ平行しているが、SD101が掘立柱建物と重複していることから、これらの掘立柱建物とは少し時期差があると考えられる。さらに掘立柱建物群と重複して井戸や土坑などがあり、およそ5～6時期の遺構が重複していると考えられる。

室町時代の遺構のうちSE111・119・121・126、SK105・109、SF124、および整地層からは良好な土器群が出土している。土師器鍋については伊藤編年の第4段階c・d・e型式を中心とするもので、時期は概ね16世紀前葉から中葉である。他の室町時代の遺構もほぼ同様の時期と考えてよいであろう。したがって、短期間の間に建物の建て替えや井戸等の構築があったと考えられる。

### (4) B地区のSF124の性格

土器焼成坑としたSF124は室町時代、16世紀の遺構であるが、同時期の土坑とは異なり、埋土には炭、灰、焼土が多量に混じっている。出土遺物は完形またはそれに近い遺物が多く、出土状況から判断すると人為的に置いた可能性が高い。土師器鍋(196～199)・羽釜(202)・甕(200・201)・鉢(203)には煤の付着はみられず、使用痕跡も確認できない。SF124は壁面や底面が焼土化していないが、埋土や出土遺物の状況から土器焼成坑と考えたものである。

中世の土器焼成坑の確認例は少ないが、明和町の本郷遺跡では、16世紀代の土器窯の可能性がある土坑が検出されている。

なお、SE111出土の(107)、SD126出土の(145)、SD114出土の(154～157)は、棒状土製品と呼ばれているもので、本郷遺跡からも出土しており、土器生産に関する遺物とされているものである。

(河北秀実)

〔註〕

- (1) 蒼宮跡に関する文献は多数あるが、総合的に記述された文献のうち近年刊行された下記の3点のみをあげておく
  - a.『蒼宮跡発掘調査報告』I 蒼宮歴史博物館 2001
  - b.明和町史編さん委員会『明和町史』蒼宮編 明和町 2005
  - c.泉雄二『伊勢蒼宮跡』(稿)同成社 2006
- (2)『仲殿遺跡』『三重県埋蔵文化財年報』16 三重県教育委員会 1985
- (3)『寺庭内遺跡』『瀬浦遺跡』三重県埋蔵文化財センター 2006
- (4)『堀之内遺跡』『三重県埋蔵文化財年報』9 三重県教育委員会 1978
- (5) a.『蒼宮跡調査事務所年報』1979 三重県蒼宮跡調査事務所 1980
  - b.『蒼宮跡調査事務所年報』1982 三重県蒼宮跡調査事務所 1983
- (6)『水池土器製作址』『蒼王宮址 一広城市町村圏道路調査』明和町教育委員会・三重県教育委員会 1977
- (7) a.『黒土遺跡』『三重県埋蔵文化財年報』16 昭和60年度 三重県教育委員会 1986
  - b.『明星地区内遺跡群』『昭和60年度農業基盤整備事業地城埋蔵文化財発掘調査報告 第1分冊』三重県教育委員会 1989
  - c.『黒土遺跡』『明和町史』史料編 第一巻 一自然・考古 明和町史編さん委員会 2004
- (8) a.『北野遺跡』『平成2年度農業基盤整備事業地城埋蔵文化財発掘調査報告』第一2分冊 三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1991
  - b.『北野遺跡(第2・3・4次)発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1995
  - c.『北野遺跡(第5次)発掘調査概報』三重県埋蔵文化財センター 1996
- (9)『戸峯A遺跡・戸峯B遺跡』『明和町史』史料編 第一巻 一自然・考古 明和町史編さん委員会 2004
- (10)『堀之内遺跡』『昭和55年度県営園場整備事業地城埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1981
- (11)『金剛坂遺跡』『昭和59年度農業基盤整備事業地城埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1985
- (12) a.『築シA遺跡』『三重県埋蔵文化財年報』3 三重県教育委員会 1972
  - b.『築シ遺跡群』『明和町史』史料編 第一巻 一自然・考古 明和町史編さん委員会 2004
- (13) a.『築シB遺跡』『三重県埋蔵文化財年報』13 三重県教育委員会 1983
  - b.註(12)bに同じ
- (14) a.『築シC遺跡』『三重県埋蔵文化財年報』15 三重県教育委員会 1985
  - b.註(12)bに同じ
- (15)『大通遺跡』『三重県埋蔵文化財年報』16 三重県教育委員会 1986
- (16)『蒼宮跡・瀬浦遺跡』『昭和54年度県営園場整備事業地城埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1980
- (17) a.『外山遺跡・本郷遺跡』『平成元年度農業基盤整備事業地城埋蔵文化財発掘調査報告』第一1分冊 三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1990
  - b.『本郷遺跡 第2次』『本郷遺跡(第2次)・曲里中遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1992
- (18) 註(17)aに同じ
- (19)『砂谷道路発掘調査報告』玉城町教育委員会 1988
- (20) 三重大学歴史研究会原始古代史部会  
『世古6号墳・池村城跡発掘調査報告』明和町教育委員会 1982
- (21)『三重の中世城館 一関発集中地域中世城館分布調査報告』三重県教育委員会 1976
- (22) 註(21)に同じ
- (23) 註(21)に同じ
- (24) 註(21)に同じ
- (25) 山茶樹の編年については、主として下記の文献を参考にした
  - a.藤澤良祐『瀬戸古墓址群I』  
『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』I  
瀬戸市歴史民俗資料館 1982
  - b.藤澤良祐『穴田南墓址群発掘調査報告』  
『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』II  
瀬戸市歴史民俗資料館 1983
  - c.藤澤良祐『茶碗研究の現状と課題』『研究紀要』 第3号 三重県埋蔵文化財センター 1994
  - (26) 灰釉陶器の編年については、主として下記の文献を参考にした
    - a.柄崎彰一ほか『愛知県猿投山・西南董古窯跡群分布調査報告』(1) 愛知県教育委員会 1980
    - b.藤澤良祐『瀬戸古墓址群I』  
『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』I  
瀬戸市歴史民俗資料館 1982
    - c.斎藤孝正『猿投窯における灰釉陶の展開』  
『月刊考古学ジャーナル』No.21 ニュー・サイエンス社 1982
    - d.柄崎彰一ほか『愛知県古窯跡群分布調査報告』(III) 愛知県教育委員会 1983
  - (27)『近畿自動車道(勢和～伊勢) 埋蔵文化財発掘調査報告』第一6分冊一 枝山遺跡左郡地区 三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1993
  - (28)『岩出地区内遺跡群発掘調査報告』一度会郡玉城町岩出所在、ケカノ辻・角舟内・虹山地区的調査一 三重県埋蔵文化財センター 1996
  - (29) 註(7) b・cに同じ
  - (30) 註(17) bに同じ
  - (31)『小牧北遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2007
  - (32)『金鏡山金光明寺古文書巻之拾赤 度會郡鶴橋郷 下十二』『日本塗装体系』史料編 古代・中世(二) 日本専門公社 1977
  - (33) a.伊藤裕偉『中世南伊勢系の土師器に関する一論論』『Mie history』vol. 1 三重歴史文化研究会 1990
    - b.伊藤裕偉『伊勢の中世煮沸用土器から東夷を見る』『第4回 東海考古学フォーラム 錦と甕 そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会 1996



世古遺跡 A 地区 全景(南から)



世古遺跡 A 地区 S B 13(東から)



世古遺跡 A 地区 S A 16・17・S B 15(北から)



世古遺跡 A 地区 S F 1(南から)



世古遺跡 B 地区 全景(北から)



世古遺跡 B 地区 北半(東から)



世古遺跡 B 地区 SK 105 遺物出土状況



世古遺跡 B 地区 S X 131(東から)



## 2 下沖遺跡

### 1 調査の経過

下沖遺跡は、伊勢市上野町に所在する遺跡である。発掘調査は、昭和60年度県営圃場整備事業（伊勢南部地区）に伴い1985年5月から開始し、同年7月に終了した。調査面積は排水路部分（A地区）と面的調査部分（B地区）合わせて770m<sup>2</sup>である。なお、同事業では1987年に対岸の和田遺跡で98m<sup>2</sup>の調査を行っているほか和田古墳を地区除外し保存している。

### 2 位置と環境

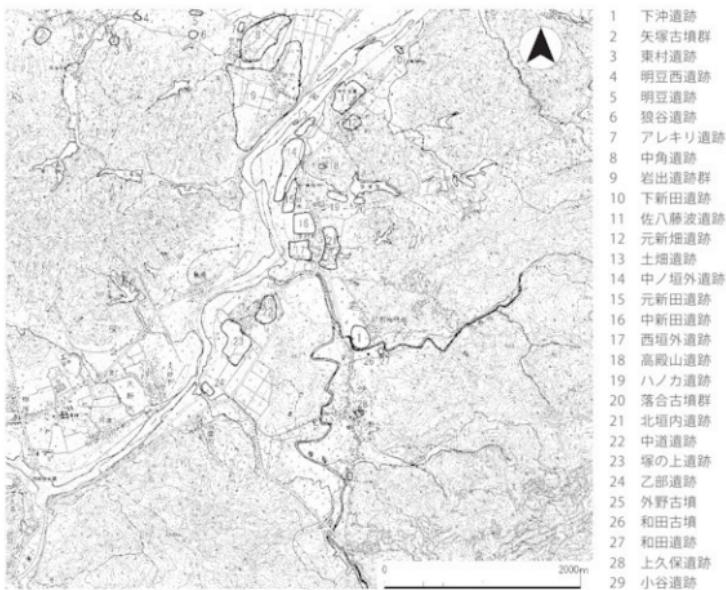
下沖遺跡（1）は、雨淵川右岸の河岸段丘下位面に位置する。標高14～15mの水田地帯である。雨淵川は当遺跡の西側で横輪川に合流し、さらに1kmほどで宮川に合流する。

当遺跡の周辺には、旧石器時代から室町時代に至る遺跡が多数確認できる。旧石器時代では元新田遺跡（15）でナイフ形石器が採集されている<sup>10)</sup>。縄文時代では中期の土器が出土したハノカ遺跡（19）、後・

晩期の拠点集落と考えられる佐八藤波遺跡<sup>11)</sup>、中ノ垣外遺跡<sup>12)</sup>がある。弥生時代では中期の堅穴住居が中ノ垣外遺跡で確認されている。古墳時代では落合古墳群<sup>13)</sup>で5世紀代の古墳が確認されているほか、当遺跡周辺には和田古墳（26）、外野古墳（25）がある。奈良・平安時代では中ノ垣外遺跡で掘立柱建物が確認されている。鎌倉・室町時代では中新田遺跡<sup>14)</sup>（16）、中ノ垣外遺跡、岩出遺跡群<sup>15)</sup>（9）で多くの構造や遺物が確認されている。

### 3 調査区の基本層位

第4図のB地区土層断面図に示したが、基本層位は第1・2層の耕作土および床上の下層が遺物包含層の第3層灰茶褐色粘質土で、その下層が基盤となる黄褐色粘質土である。現地表面から40～60cmの深さである。ただし、B地区的東端では第3層と基盤層の間に灰茶褐色礫混土と茶褐色粘質土を含む。



第17図 下沖遺跡遺跡位置図(1:50,000)[国土地理院『伊勢』1:25,000]

## 4 遺構と遺物

発掘調査の結果確認された遺構は平安時代の土塙墓S X 4 のほかは鎌倉時代から室町時代にかけてのものである。遺物は土師器皿・小皿・鍋を中心とするが遺物包含層から石鏡も出土している。以下、遺物の記述について法量などの詳細は遺物観察表によることとする。

**掘立柱建物 S B15** 3間×1間以上の規模の建物である。総柱建物になる可能性がある。柱掘形は40cm前後の円形である。柱間は東西2.1m、南北は1.9m+2.0m+1.9mである。建物の時期は不明であるが井戸S E 13に伴えば15世紀代であろう。

**土塙墓 S X 4** 長軸95cm×短軸80cm、深さ20cmの土塙に渥美窯産の広口瓶(31)を横向きに埋設している。骨は出土していないが、その出土状況から土塙墓と思われる。広口瓶の体部にはヘラ描き記号がみられる。12世紀代と考えられる。

**土坑 S K 2** A地区の南端にあるいくつかの土坑の重複あるいは落ち込みである。深さは10cm前後と浅い。土師器小皿(1~3)・皿(4~8)・鍋(9)

~11)、陶器山茶椀(12~19)・鉢(20)・壺(21)、青磁椀(22・23)が出土しており、13世紀後半から14世紀中葉と考えられる。

**土坑 S K 5** S X 4 の北に位置する。長軸60cm×短軸50cm、深さ10cmの土坑である。土師器小皿(24)・皿(25)・鍋(26)、陶器山茶椀(27)が出土しており、13世紀代と考えられる。

**土坑 S K 6** S K 5 の北に位置する。長軸80cm×短軸84cm、深さ20cmの土坑である。土師器鍋(29・30)、陶器山茶椀(28)が出土している。山茶椀は13世紀代であるが土師器鍋は15世紀代の遺物であり、15世紀代の遺構と考えられる。

**土坑 S K 18** B地区の中央付近に位置する。複数の土坑が重複していると思われる。深さは10cmと浅い。土師器小皿(62)・皿(63)が出土しており、15世紀代と考えられる。

**土坑 S K 7・9~12・16・19** いずれも排水路部分のみの幅の狭いA地区の遺構で調査区外へ続くため規模は不明である。深さは15~40cmである。出土遺物が土師器細片のため遺構の時期は不明であ



第18図 下沖遺跡遺跡地形図(1:5,000)

る。

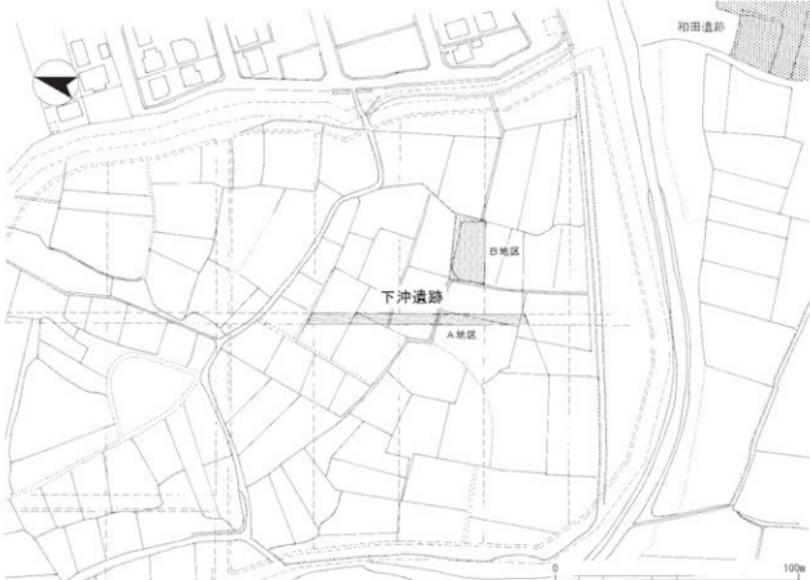
**井戸 S E 1** 石組みの井戸である。井戸の掘形は直径約2.0mのほぼ円形である。深さは検出面から約2.3mである。底に幅約30cm、高さ約40cmの板材を8枚組み合わせた直径約60cmの木桶を据えて井筒としている。石組みはその木桶の上部から5段ほどは15cm前後の小振りな川原石を真っ直ぐに積み上げ、その後30cm前後の川原石を積み上げて築かれている。上部にいくほど直径は広がり、検出面での石組みの直径は約1.1mである。井戸埋土下層から土師器小皿(32~40)・鍋(41)が出土しており、15世紀後半には埋没している。

**井戸 S E 8** 素掘りの井戸である。深さは約1.8mまで掘り下げたが湧水が激しく以下未掘。井筒などは見つかっていない。埋土は上からI層が灰茶褐色粘質土、II層が黄茶褐色粘質土、いずれも5~10cmほどの礫を含んでいる。III層が鉄分を含む黄灰色粘土で20~30cmの川原石が投げ込まれている。IV層が青灰色粘土で湧水が激しい。遺物はI層から陶器縁小皿(43)、III層から土師器羽釜(42)が出

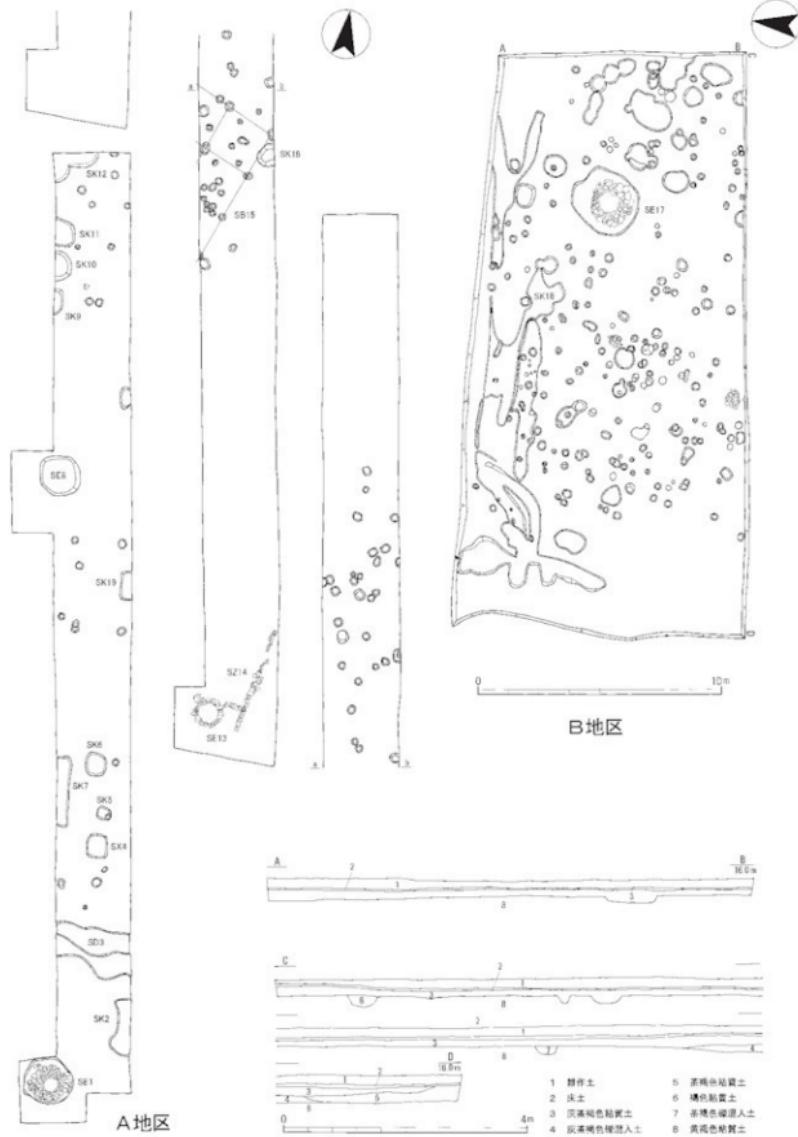
土している。図化していないがIV層からは土師器小皿・鍋も出土しており、おおむね15世紀には埋没している。

**井戸 S E 13** 石組みの井戸である。井戸の掘形は直径1.8mほどの円形である。石組みは直径約90cmで深さ約1.6m、井戸 S E 1とは異なり真っ直ぐに積まれている。土師器蓋(44)・鍋(45)、陶器山茶椀(46~50)・壺(51)・練鉢(52)が出土しているが、土師器が15世紀代に対して山茶椀は12世紀代と考えられる。山茶椀は混入と思われ、最終の埋没時期は15世紀と考えられる。井戸の東側に石列S Z 14があるが用途は不明である。石列の北側と西側に面を揃える。

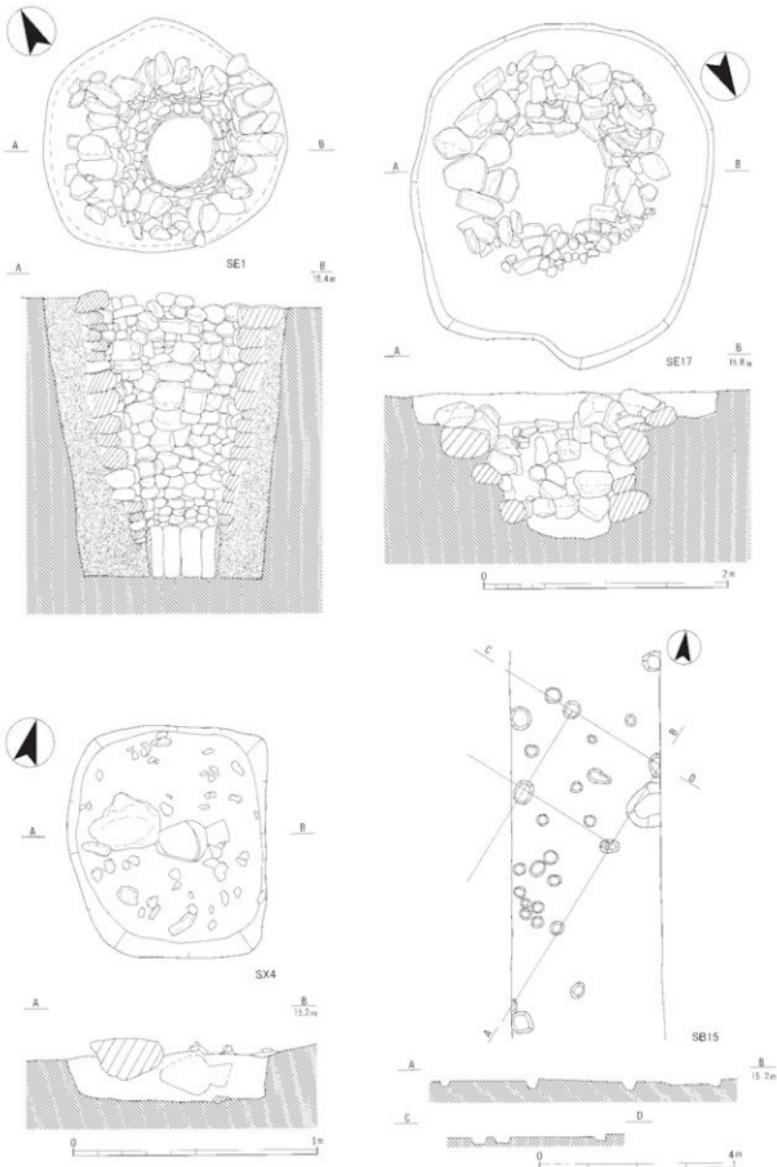
**井戸 S E 17** B地区の西寄りに位置する。石組みの井戸である。掘形は2.8m×2.5mの楕円形。石組みの直径は上部で1.1mである。深さは検出面から約1.2mと浅い。底の直径は約70cm。陶器壺(64)・甕(66)、青磁椀(65)が出土している。ほかの井戸と同様におおむね15世紀代に埋没したと思われる。



第19図 下沖遺跡調査区位置図(1:2,000)



第20图 下冲道路A地区·B地区遗构平面图(1:200)、B地区土层断面图(1:80)



第21図 下沖遺跡 SE 1・SE 17実測図(1:40)、SX 4実測図(1:20)、SB 15実測図(1:100)

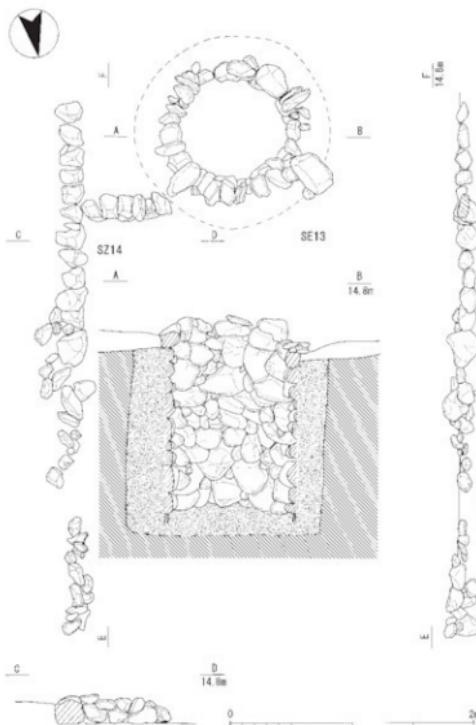
溝 S D 3 A 地区土坑 S K 2 の北側に位置する。幅 0.5 ~ 1.1m、深さ 10 ~ 15cm。東西方向の溝で調査区外へと続く。出土遺物はなく時期は不明。

そのほかの遺構と遺物 面的な調査を行った B 地区では不整形な土坑あるいは溝状の遺構があるが出土遺物もなくてはっきりとしない。遺物では A 地区の遺物包含層から縁輪陶器椀 (53・54) や土師器椀 (57)、砥石 (61) などが出土しており、B 地区の遺物包含層からは白磁合子 (73)、土師器椀 (68・78)、石鐵 (80) などが出土している。遺構の確認されていない 10 世紀から 11 世紀の遺物もみられ、今回の調査区以外にこれらの時期の遺構が存在する可能性がある。

## 5まとめ

今回の調査では標高 14 ~ 15m と周辺の周知の遺

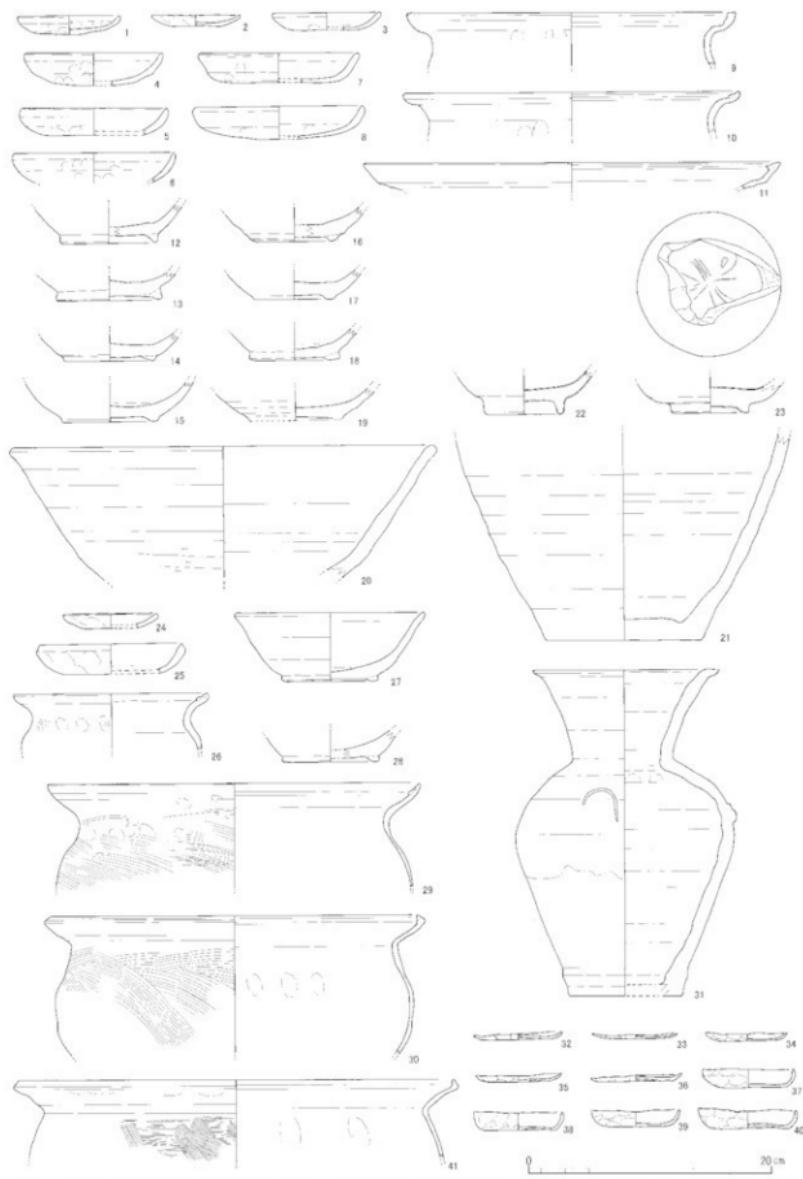
跡に比べて 5m 前後低い立地にもかかわらず、12世紀から 15 世紀代の遺構が確認された。当遺跡から約 1.5 km ほど北に位置する中新田遺跡の発掘調査では一部 15 世紀に入る遺構があるようだが、13 世紀後半から 14 世紀を中心とする遺構遺物が確認されている。当遺跡ではその前後する時期に集落の展開の中心がみられるようである。ただ、ごく限られた範囲の調査であったため遺跡の全容の把握は難しい。そのような限られた調査ではあったが 12 世紀代の土壤墓 S X 4 の検出などこの地域の歴史の解明に一定の成果はあげられたのではないかろうか。



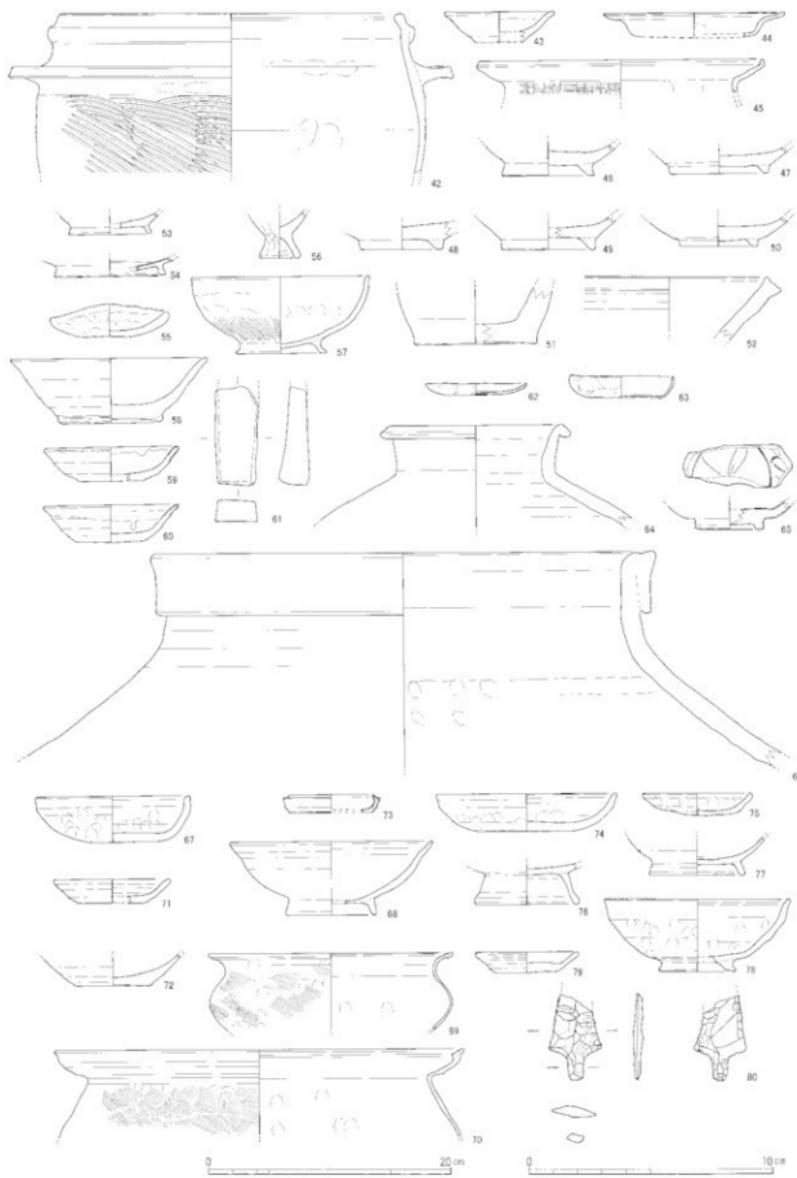
第22図 下冲遺跡 S E 13・S Z 14実測図(1:40)

### 【註】

- (1)『三重県伊勢市遺跡分布図』伊勢市教育委員会 1981
- (2)「ハノカ遺跡」  
『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告－第5分冊』三重県埋蔵文化財センター 1992
- (3)『佐八藤波遺跡発掘調査報告』伊勢市教育委員会 1990
- (4)「中ノ垣外遺跡」  
『昭和58年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1984
- (5)『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告－第7分冊－ 落合古墳群』三重県埋蔵文化財センター 1992
- (6)『岩出地区内遺跡群発掘調査報告』  
三重県埋蔵文化財センター 1996
- (7)『中新田遺跡(第2次)発掘調査報告－三重県伊勢市津村町所在』  
三重県埋蔵文化財センター 2007



第23図 下冲遺跡A地区遺物実測図(1:4)[1~23:SK2, 24~27:SK5, 28~30:SK6, 31:SX4, 32~41:SE1]



第24図 下冲遺跡A・B地区遺物実測図(1:4)

報告番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	007-05	土師器 小皿	C2 SK2埋土	□8.3	□:33外 内:外:ガ、桂I	密	良	橙7.5YR7/6	完存	
2	004-05	土師器 小皿	C2 SK2埋土	□7.2	□内:ガ 外:2C桂I後ガ	密	良	橙7.5YR7/6	3/12	
3	007-03	土師器 小皿	C1・2 SK2埋土	□8.8	□:33外 内外:ガ、桂I	やや密	良	浅黄橙7.5YR8/3	□4/12	
4	007-01	土師器 皿	C1・2 SK2埋土	□11.3	□:33外 内外:ガ、桂I	やや密	良	にぶい橙7.5YR7/4	□3/12	
5	004-04	土師器 皿	C2 SK2埋土	□12.0	□:33外 内:ガ 外:2C桂I後ガ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	□2/12	
6	007-06	土師器 皿	C2 SK2埋土	□13.2	□:33外 内外:ガ、桂I	密	良	浅黄橙10YR8/3	□2/12	
7	007-02	土師器 皿	C1・2 SK2埋土	□13.0	□:33外 内外:ガ、桂I	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/3	□3/12	
8	007-04	土師器 皿	C1・2 SK2埋土	□13.8	□:33外 内外:ガ、桂I	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	□2/12	
9	008-03	土師器 瓢	C1・2 SK2埋土	□26.8	□:33外 内外:桂I、ガ	やや密	良	にぶい橙7.5YR7/4	□1/12	
10	008-01	土師器 瓢	C1・2 SK2埋土	□27.5	□:33外 内外:桂I、ガ	やや密	良	灰白10YR8/2	□1/12	
11	008-02	土師器 瓢	C1・2 SK2埋土	□34.0	□:33外、ガ	やや密	良	灰白10YR8/2	□1/12	
12	005-06	陶器 山茶椀	C2 SK2	底7.4	内:0.07外: 外:0.07、貼付高台行、糸切り痕	密	良	灰白5Y8/1	底1/2	
13	005-04	陶器 山茶椀	C1・2 SK2埋土	底8.2	内:0.07外: 外:0.07、貼付高台行、糸切り痕	密	良	灰白5Y7/1	底3/4	内面磨耗
14	009-04	陶器 山茶椀	C1・2 SK2埋土	底7.4	内:0.07外: 外:0.07、貼付高台行、糸切り痕	密	良	灰白7.5Y7/1	底1/2	
15	009-05	陶器 山茶椀	C1・2 SK2埋土	底6.8	内:0.07外: 外:0.07、貼付高台行、糸切り痕	密	良	灰白7.5Y7/1	底4/12	
16	006-02	陶器 山茶椀	C1・2 SK2埋土	底6.0	内:0.07外: 外:0.07、貼付高台行、糸切り痕	密	良	灰白2.5Y7/1	底1/4	
17	009-02	陶器 山茶椀	C1・2 SK2埋土	底6.5	内:0.07外: 外:0.07、貼付高台行、糸切り痕	密	良	灰10Y7/	底部 完存	
18	005-07	陶器 山茶椀	C1・2 SK2埋土	底6.0	内:0.07外: 外:0.07、貼付高台行、糸切り痕	密	良	灰白5Y7/1	底1/4	
19	009-03	陶器 山茶椀	C1・2 SK2埋土	底6.8	内:0.07外: 外:0.07、貼付高台行、糸切り痕	密	良	灰白5Y8/1	底1/2	
20	006-04	陶器 鉢	C2 SK2埋土	□34.3	□内:0.07外:0.07ガ、桂I	やや粗	良	灰白5Y7/1	□1/12	
21	009-01	陶器 壺	C1・2 SK2埋土	底12.8	叻叻	密	良	灰桂I-7 7.5Y6/2	底部 完存	
22	005-05	青磁 梅	C1・2 SK2埋土	底5.8	施釉	密	良	素地灰白7.5Y7/1 桂I-7 灰5Y6/1	底1/3	
23	007-07	青磁 梅	C1・2 SK2埋土	底6.2	施釉	密	良	素地灰白10Y7/1 桂I-7 黄7.5Y6/3	底10/12	
24	004-06	土師器 小皿	C3 SK5埋土	□7.6	□内:ガ 外:2C桂I後ガ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	□3/12	
25	004-07	土師器 皿	C3 SK5埋土	□11.6	□:33外 内:ガ 外:2C桂I後ガ	密	良	浅黄橙10YR8/4	□2/12	
26	006-05	土師器 瓢	C3 SK5埋土	□15.8	□:33外 内:ガ 外:2C桂I後ガ	やや粗	良	灰白2.5Y8/2	□2/12	
27	006-03	陶器 山茶椀	C3 SK5埋土	□15.4底6.9 器高5.6	内:0.07外: 外:0.07、貼付高台行、糸切り痕	密	良	灰白7.5Y7/1	1/3	
28	006-01	陶器 山茶椀	C3 SK6埋土	底7.6	内:0.07外: 外:0.07、貼付高台行、糸切り痕	密	良	灰白7.5Y7/1	底1/6	内面磨耗
29	005-03	土師器 瓢	C4 SK6埋土	□30.4	□:33外 内:2C桂I後ガ 外:ガ	やや粗	良	灰白5Y8/1	□1/12	外面入付着 寸5本/cm
30	005-02	土師器 瓢	C4 SK6埋土	□30.0	□:33外 内:2C桂I後ガ 外:ガ	やや粗	良	にぶい橙7.5YR7/4	□3/12	外面入付着 寸4本/cm
31	010-01	陶器 广口瓶	C3 SK4	□15.3	叻叻	密	良	暗灰3/3	1/2	
32	002-01	土師器 小皿	C1 SE1下層内	□7.3	□内:ガ 外:2C桂I後ガ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	ほぼ 完存	
33	002-03	土師器 小皿	C1 SE1下層内	□14.0	□内:ガ 外:2C桂I後ガ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	完存	
34	002-04	土師器 小皿	C1 SE1下層内	□18.0	□内:ガ 外:2C桂I後ガ	密	良	灰白10YR8/2	完存	
35	002-05	土師器 小皿	C1 SE1下層内	□8.2	□内:ガ 外:2C桂I後ガ	密	良	浅黄橙10YR8/4	1/2	
36	002-02	土師器 小皿	C1 SE1下層内	□12.5	□内:ガ 外:2C桂I後ガ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	完存	
37	002-08	土師器 小皿	C1 SE1下層内	□16.0	□内:ガ 外:2C桂I後ガ	密	良	浅黄橙10YR8/3	完存	
38	002-07	土師器 小皿	C1 SE1下層内	□27.0	□内:ガ 外:2C桂I後ガ	密	良	浅黄橙10YR8/3	完存	
39	002-06	土師器 小皿	C1 SE1下層内	□20.2	□内:ガ 外:2C桂I後ガ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	1/2	
40	002-09	土師器 小皿	C1 SE1下層内	□10.5	□内:ガ 外:2C桂I後ガ	密	良	浅黄橙10YR8/4	完存	

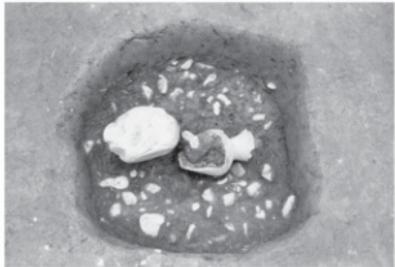
第9表 下沖遺跡遺物觀察表1

報告書番号	実測番号	器種	出土地区 出土遺構	法量	調整・技法	胎土	焼成	色調	残存	備考
41	001-03	土師器 瓢	C1 SE1下層内	□35.6	□:33方 内:北 <sup>1</sup> 柱I後方 <sup>1</sup> 外:時	密	良	淡黄橙10YR8/4	□1/12	外圓双付蓋 径8~9cm 外面双付蓋 径3cm
42	001-01	土師器 羽釜	C7 SE8III層	□28.0	□:33方 内:北 <sup>1</sup> 柱I後方 <sup>1</sup> 外:33方,△時	密	良	淡黄2.5Y8/3	□5/12	
43	003-08	陶器 緑釉小皿	C11 SEB1層	□9.0	□:33方 内外:△時	密	良	素地灰白7.5Y8/1 釉粒:-7 黄7.5Y6/3	□3/12	
44	003-07	土師器 朱金盞	C11 SE1上層	□14.8	□:33方 内外:△時	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	1/12	
45	001-02	土師器 瓢	C11 SE13上層	□23.2	□:33方 内:北 <sup>1</sup> 柱I後方 <sup>1</sup> 外:時	密	良	淡黄橙10YR8/4	□1/12	外圓双付蓋 径4本/cm
46	003-02	陶器 山茶椀	C11 SE13	底7.6	内:0.0方 外:0.0方、貼付高台 <sup>1</sup> 、系切り痕	密	良	灰白2.5Y7/1		底部 完存
47	003-04	陶器 山茶椀	C11 SE13	底8.0	内:0.0方 外:0.0方、貼付高台 <sup>1</sup> 、系切り痕	密	良	灰白2.5Y7/1		底部 完存
48	003-03	陶器 山茶椀	C11 SE13	底6.7	内:0.0方 外:0.0方、貼付高台 <sup>1</sup> 、系切り痕	密	良	灰白2.5Y7/1		底部 完存
49	003-05	陶器 山茶椀	C11 SE13上層	底7.6	内:0.0方 外:0.0方、貼付高台 <sup>1</sup> 、系切り痕	密	良	灰白2.5Y7/1		底部 完存
50	003-01	陶器 山茶椀	C11 SE13	底6.4	内:0.0方 外:0.0方、貼付高台 <sup>1</sup> 、系切り痕	密	良	灰白2.5Y7/1		底部 完存
51	003-06	陶器 盆	C11 SE13上層	底10.0	内:0.0方 外:0.0方、貼付高台 <sup>1</sup> 、系切り痕	密	良	灰白2.5Y7/1		底部 完存
52	004-01	陶器 狩鉢	C11 SE13	—	0.0方	密	良	赤褐10YR4/3		小片
53	013-07	緑釉陶器 楠	C11 A地区包	底6.7	内: 色釉 外: 色釉,△時,貼付高台 <sup>1</sup>	密	良	素地灰10Y6/1 釉粒:-7 5Y4/3	底3/12	
54	014-02	緑釉陶器 楠	C18 A地区包	底9.0	施釉	密	良	素地灰白2.5Y7/1 釉粒:-7 黄7.5Y6/3	底3/12	
55	013-04	土師器 小皿	G6 A地区包	□9.1~10.0	北 <sup>1</sup> 柱I	やや粗	良	浅黄橙10YR8/3		完存
56	013-05	土師器 △時 <sup>1</sup> 土器	C20 A地区包	底3.2	内:△時 <sup>1</sup> 外: 2 <sup>1</sup> 柱I,△時 <sup>1</sup>	やや密	良	にぶい黄橙10YR6/3		脚部 完存
57	013-06	土師器 楠	C19 A地区包	□144 底7.3 高6.2	□:33方 内: 柱I,△時 <sup>1</sup> 外: 柱I,△時 <sup>1</sup> ,△時,貼付付	密	良	浅黄橙10YR8/3	1/2	
58	013-02	陶器 山茶椀	C12 A地区包	□61.1 底8.1 高5.3	□内: 0.0方 外: 0.0方、貼付高台 <sup>1</sup> 、系切り痕	密	良	灰白2.5Y7/1	1/5	
59	013-03	陶器 緑釉小皿	C7 A地区包	□118 底5.4 高2.7	□内: 0.0方 外: 0.0方、系切り痕	密	良	素地灰白2.5Y8/2 灰粒:-7 7.5Y6/2	1/3	
60	014-01	土師器 小皿	C1・2 A地区包	□109 底5.5 高3.2	0.0方	やや密	良	素地灰SY6/1 釉斑褐色10YR3/3	2/3	
61	011-05	石製品 研石	C15 A地区包	(8.1)×3.55 ×24.5	—	—	—	—	—	重さ97.0g
62	004-03	土師器 小皿	H4 SK18	□8.4	□内:△時 <sup>1</sup> 外: 北 <sup>1</sup> 柱I後方 <sup>1</sup>	密	良	灰白2.5Y8.2	6/12	
63	004-02	土師器 小皿	H4 SK18	□8.4	□内:△時 <sup>1</sup> 外: 北 <sup>1</sup> 柱I後方 <sup>1</sup>	密	良	灰白2.5Y8.2	8/12	
64	014-03	陶器 盆	G3 SE17	□14.0	0.0方	粗	良	にぶい赤褐5YR5/3	□4/12	
65	014-04	青磁 楠	G3 SE17	底5.0	施釉	密	良	素地灰白N7/ 釉粒:-7 青2.5G7/1	底1/2	
66	005-01	陶器 繩	G3 SE17	□40.6	□外: 0.0方 内: 北 <sup>1</sup> 柱I後方 <sup>1</sup>	やや粗	良	赤2.5YR4/2	□3/12	
67	011-03	土師器 杯	G6 B地区包	□12.6~13.2	□:33方 内外: 柱I,△時 <sup>1</sup>	密	良	灰白2.5Y8/1	□7/12	
68	011-01	土師器 楠	G3 B地区包	□16.6 底7.3 高8.0	□:33方 内: △時 <sup>1</sup> ,柱I 外: 0.0方、貼付高台 <sup>1</sup>	やや密	良	灰白2.5Y8/2	□4/12	
69	011-04	土師器 瓢	G4 B地区包	□20.0~24.4	□:33方, 柱I 内: 柱I,△時 <sup>1</sup> 外: 柱I,△時 <sup>1</sup> ,△時	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	□4/12	外圓双付蓋 径6本/cm
70	011-06	土師器 瓢	G4 B地区包	□33.6	□:33方 内: 2 <sup>1</sup> 柱I,△時 <sup>1</sup> 外: 柱I,△時 <sup>1</sup> ,△時	やや密	良	淡黄2.5Y8/3	□3/12	外圓双付蓋 径6本/cm
71	011-02	陶器 緑釉皿	F2 B地区包	□9.4	0.0方	密	良	素地灰白2.5Y8/2 釉粒:-7 7.5Y6/2	□6/12	
72	013-01	土師質土器 瓢	G2 B地区包	底6.1	内: 0.0方 外: 0.0方、系切り痕	やや密	良	灰白10YR8/2		底部 完存
73	014-05	白磁 合子	F6 B地区包	□6.8	施釉, 0.0方	密	良	素地灰白SY8/1 釉粒:灰白2.5G7/1	底3/2	
74	012-01	土師器 瓢	H3 B地区P6	□14.8	□:33方 内外: 柱I,△時 <sup>1</sup>	密	良	淡黄2.5Y8/3	□3/12	
75	012-05	土師器 小皿	F5 B地区P15	□8.8~9.0	□:33方 内外: 柱I,△時 <sup>1</sup>	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	□7/12	
76	012-03	土師器 楠	F5 B地区P12	底8.4	内: △時 <sup>1</sup> 外: △時 <sup>1</sup> ,貼付高台 <sup>1</sup>	密	良	灰黄褐10YR6/2	底7/12	
77	012-02	土師器 楠	F5 B地区 P15	底7.6	内: △時 <sup>1</sup> 外: △時 <sup>1</sup> ,貼付高台 <sup>1</sup>	密	良	浅黄橙10YR8/3	□6/12	
78	012-06	土師器 楠	F5 B地区P5	□15.2 底6.2 高5.9	□:33方 内: 柱I,△時 <sup>1</sup> 外: 柱I,△時 <sup>1</sup> ,貼付高台 <sup>1</sup>	やや密	良	灰白10YR8/2	5/12	
79	012-04	陶器 小皿	H4 B地区P7	□8.2	□内: 0.0方 外: 0.0方、系切り痕	密	良	灰白2.5Y7/1	□4/12	
80	015-01	石製品 研石	G5 B地区包	(3.5) ×2.1	—	—	—	—	—	重さ28g

第10表 下冲遺跡遺物観察表2



下冲遺跡 A 地区 S X 4 (南東から)



下冲遺跡 A 地区 S X 4 (南東から)



下冲遺跡 A 地区南部 (北から)



下冲遺跡 A 地区 S E 13・S Z 14 (西から)



下冲遺跡 B 地区全景 (東から)

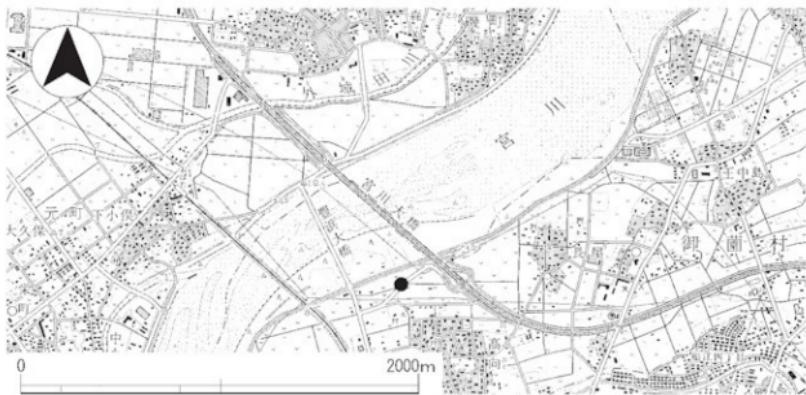


### 3 ニツ屋遺跡

ニツ屋遺跡は宮川下流右岸の伊勢市御箇町高向集落の北方に位置し、自然堤防に相当する微高地に立地する。平成6年度県道大湊宮町停車場線国補道路改良事業に伴って同年4月18・19日に範囲確認調査が実施された。その結果、中世陶器を中心とした遺

物が出土し、溝や土坑が検出されたおよそ1,100m<sup>2</sup>について本調査を実施した。

調査は平成6年9月12日から11月8日まで行い、最終的な調査面積は955m<sup>2</sup>であった。調査区は現道を挟んで北側をA地区、南側をB地区とした。A地



第24図 ニツ屋遺跡遺跡位置図(1:25,000)[国土地理院『明野』1:25,000]

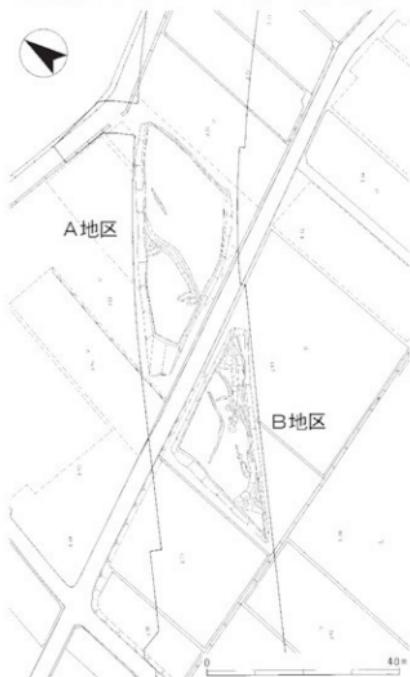


第25図 ニツ屋遺跡調査区位置図・試掘坑位置図(1:5,000)

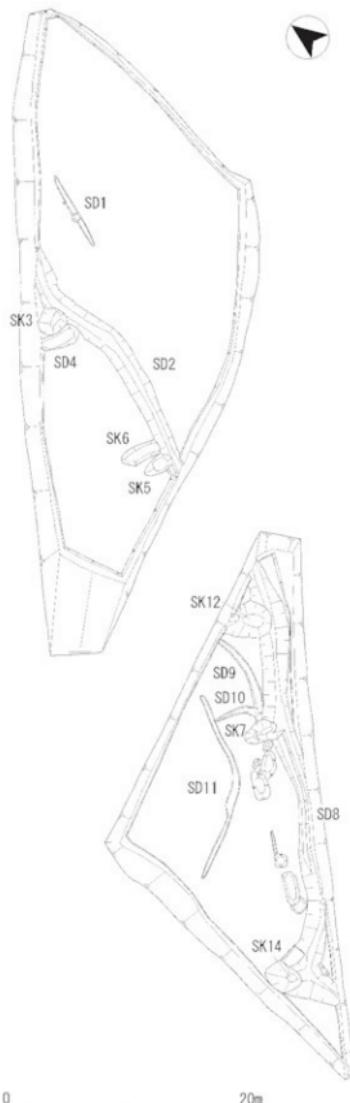
区の東半分は全面攢乱を受けており、遺構・遺物とも確認できなかったが、溝6条および土坑6基とピット等を検出した。出土遺物には時代幅があるが、概ね鎌倉時代前期が遺構の中心時期と考えられる。

A地区のほぼ中央部を北東から南西にむかって延びる溝SD2は、B地区のSD8へ続くと思われる。この溝は上面幅1.6～2m、深さ0.9～1.2mであるやかに蛇行している。断面形は底面に近い下半ではしっかりした逆台形ないしはU字形を呈しているが、上半部分では楕円形となっており、掘り直しが行われたものと考えられる。北方向へ流れる傾斜を有している。最下部には黄灰色土ないし灰褐色土、そして上部には灰褐色ないしは褐色の砂が堆積していた。その埋土からは奈良時代から鎌倉時代にかけての遺物が比較的多く出土した。

そのほかの溝(SD1・4・9・10・11)は規模の小さな小溝ばかりで、SD4・9を除いて遺物は出土



第26図 ニツ屋遺跡調査区配置図(1:1,000)



第27図 ニツ屋遺跡遺構実測図(1:400)

していない。

土坑は幅1.6~2.8m、長さ2~3.2m、深さ0.91~1.2m程度の長楕円形のものである。SK3・(SD4)・5・6・12・13・14が8mから20m程度の間隔をもってSD2・8の北肩部に取り付くようなあり方を示しているが、これらの土坑の性格は不明である。

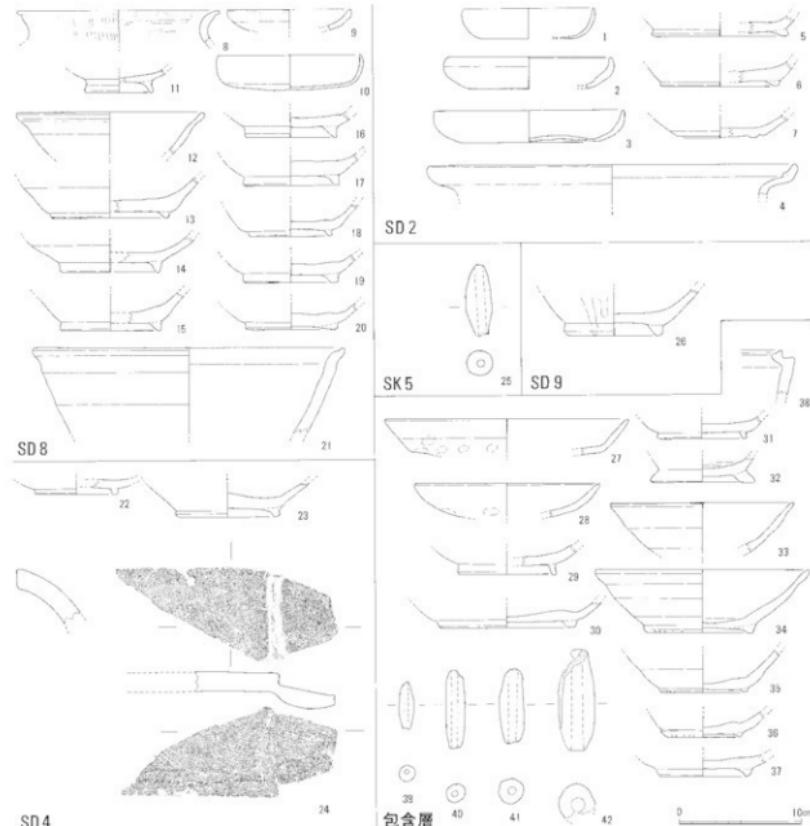
出土した遺物の全体量はコンテナ3箱と少量である。A地区の包含層からは古墳時代の須恵器・土師器も出土している。また、B地区では縁袖陶器の細片が2点出土しているのが注目される。

個々の出土遺物については、第11表の遺物観察

表にまとめた。遺構出土の遺物は、SD2および8からの出土が大半を占め、その多くが平安末~鎌倉時代前期の山茶椀が占め、土師器皿・鍋も概ね該期のものであることから、溝の埋没時期は鎌倉時代前半とすることができよう。

### まとめ

今回の調査地は高向集落の北に位置し、すぐ北には宮川が流れ、宮川が形成した自然堤防が広がる微高地となっている。この自然堤防は東西に長く広がり長屋集落まで続いており、南勢バイパス建設に伴って発掘調査された高向A~C遺跡が立地している。



第28図 ニツ屋遺跡遺物実測図(1:4)

遺物番号	実測番号	出土遺跡位置	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	高台径(cm)	技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	
1	001-08	SD2	土師器小皿	11.0	2.5	8.0	3.0	切削、ガ	密、細砂粒含	並	灰白	□1/5		
2	001-07	SD2	土師器皿	13.6	2.6	10.0	3.0	切削、ガ	密、微砂粒含	並	淡黄	□1/5		
3	001-06	SD2	土師器皿	15.8	2.6	11.0	3.0	切削、ガ	密、微砂粒含	並	淡黄	□1/8		
4	002-01	SD2	土師器皿	30.3				粗、砂粒含	並	浅黄橙	□1/10	煤付着		
5	001-03	SD2	山茶楓		11.0	0.0	7.0	高台はリつけ やや粗、細砂粒含	良	灰白	底1/2			
6	001-04	SD2	山茶楓		9.6	0.0	7.0	高台はリつけ やや粗、細砂粒含	並	灰白	底1/5	底部内面に自然釉		
7	001-05	SD8	陶器鉢		6.0	0.0	4.0	高台削り出し	密、細砂粒含	良	灰白	底1/4	山茶楓質・無釉	
8	004-05	SD8	土師器甕	16.6				切削、ガ	密、砂粒含	並	橙	□1/4		
9	003-07	SD8	土師器小皿	10.2				切削、ガ	やや密、微砂粒含	良	にぶい橙	□1/6	胎土に金雲母 多く含む	
10	004-06	SD8	土師器皿	11.6	2.8	7.6	3.0	切削、ガ、柱	密、砂粒含	良	灰白	□～底1/2		
11	003-06	SD8	灰釉陶器 小鉢		7.6	0.0	5.0	高台、高台はリつけ 精良	良	灰白	底1/8			
12	003-08	SD8	山茶楓	15.4				切削	並、砂粒含	良	灰白	□1/4		
13	003-02	SD8	山茶楓		9.6	0.0	7.0	高台はリつけ やや粗、砂粒含	良	灰白	□1/3			
14	003-04	SD8	山茶楓		8.2	0.0	6.0	高台はリつけ 精良	良	灰白	底3/8			
15	004-03	SD8	山茶楓		8.3	0.0	6.0	高台はリつけ 並、砂粒含	良	灰白	底1/4			
16	004-02	SD8	山茶楓		7.4	0.0	5.0	高台はリつけ 並、細砂粒含	良	灰白	底1/4	高台は別の粘土使用		
17	003-01	SD8	山茶楓		7.9	0.0	5.0	高台はリつけ やや粗、砂粒含	良	灰白	底ほぼ完存			
18	003-03	SD8	山茶楓		6.8	0.0	4.0	高台はリつけ 密、砂粒含み	良	灰白	底完存			
19	004-01	SD8	山茶楓		8.1	0.0	5.0	高台はリつけ やや密、砂粒含	良	灰白	底完存			
20	004-04	SD8	山茶楓		7.5	0.0	4.0	高台はリつけ やや粗、砂粒含	並	灰白	底完存			
21	003-05	SD8	陶器縁鉢	27.6				切削	並、砂粒含	並	灰	□1/24		
22	001-02	SD4	灰釉陶器		6.0	0.0	4.0	高台はリつけ 精良	良	灰白	底小片			
23	001-01	SD4	山茶楓		8.0	0.0	6.0	高台、高台はリつけ やや粗、細砂粒含	良	灰白	底4/5			
24	002-03	SD4	丸瓦		7.4	0.0	5.0	後削	並、砂粒含	良	灰白	約1/6		
25	002-02	SK5	土師		7.4	0.0	5.0	ガ	密、微砂粒含	並	灰白	完存	黒斑あり	
26	005-02	SD9	山茶楓		8.0	0.0	6.0	高台はリつけ 密	良	灰白	底完存	釉なしあり		
27	006-06	包含層	土師器杯	19.8				切削	並	にぶい橙	□1/20			
28	007-01	包含層	土師器杯	15.0				北・村にガ	密	並	橙	□1/8		
29	006-04	包含層	良色土器縁		8.0	0.0	6.0	高台はリつけ 相、砂粒含	並	にぶい橙	底1/6			
30	006-02	包含層	須恵器杯		11.0	0.0	7.0	高台はリつけ 相、砂粒含	並	灰	底1/4			
31	005-06	包含層	灰釉陶器縁		7.4	0.0	5.0	高台はリつけ 密、微砂粒含	良	灰白	底1/2			
32	006-01	包含層	灰釉陶器縁		8.5	0.0	6.0	高台はリつけ 密	良	灰白	底1/2			
33	005-05	包含層	山茶楓	15.0				切削	密	良	灰白	□～体1/8		
34	005-01	包含層	山茶楓	17.3	5.2	8.5	8.0	高台、高台はリつけ 相、砂粒含	並	灰白	□1/4,	高台に粉腹痕		
35	005-03	包含層	山茶楓		7.2	0.0	5.0	高台、高台はリつけ 密、微砂粒含	並	灰白	底1/2	高台に粉腹痕		
36	005-04	包含層	山茶楓		6.3	0.0	4.0	高台、高台はリつけ 密、微砂粒含	並	灰白	底完存	高台に粉腹痕		
37	005-05	包含層	山茶楓		7.5	0.0	5.0	高台、高台はリつけ 密	良	灰白	底1/4			
38	006-03	包含層	陶器縁		7.4	0.0	5.0	ガ	密、微砂粒含	良	にぶい橙	□小片	鉄錆	
39	007-05	包含層	土師		7.4	0.0	5.0	ガ	相、砂粒含	並	橙	西端一部欠失		
40	007-04	包含層	土師		7.4	0.0	5.0	ガ	相	良	淡黄	ほぼ完存		
41	007-03	包含層	土師		7.4	0.0	5.0	ガ	粗、微砂粒含	並	淡黄	完存		
42	007-02	包含層	土師		7.4	0.0	5.0	ガ	粗、微砂粒含	並	灰白	1/4欠失		

第11表 ニツ屋遺跡遺物観察表

今回の調査地では顯著な遺構は検出されなかったことから、高向遺跡の周辺部と考えられよう。

高向A～C遺跡では、飛鳥時代の溝、奈良時代の堅穴住居や平安時代の掘立柱建物、鎌倉・室町時代の井戸や土坑などが検出されていて、古代以降は比較的安定した土地であったことがうかがえる。特に、高向B遺跡での甕付掘立柱建物の検出、同B・C遺跡での縁袖陶器や石帶具の出土が注目されることから、同遺跡は一般集落ではない旧高向郷

の官衙的性格を有する集落であったとされている。

高向地区への人々の定着は飛鳥時代に初現をみ、平安時代にはすでに高向郷として成立していた場所である。今回の調査においても小片ではあるものの縁袖陶器の破片が出土したこと、そのような歴史性を裏付けるものであろう。

#### [参考文献]

三重県教育委員会『南勢バイパス埋蔵文化財調査報告書』  
建設省中部地方建設局・三重県教育委員会 1973

報告書抄録

南勢の考古資料 1

世古遺跡・下沖遺跡・二ツ屋遺跡

研究紀要第 17 — 2 号

2008(平成 20)年 3 月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター  
印 刷 ㈲山文印刷